

637  
158



0017118-000

637-158

民事訴訟記録

民事訴訟法研究会・編

巖松堂書店

昭和8

ACH



8.127



472

6  
14

責任編輯者

大審院判事  
大審院判事

細野長良  
井野英一

民事訴訟記錄

東京 巖松堂書店發兌

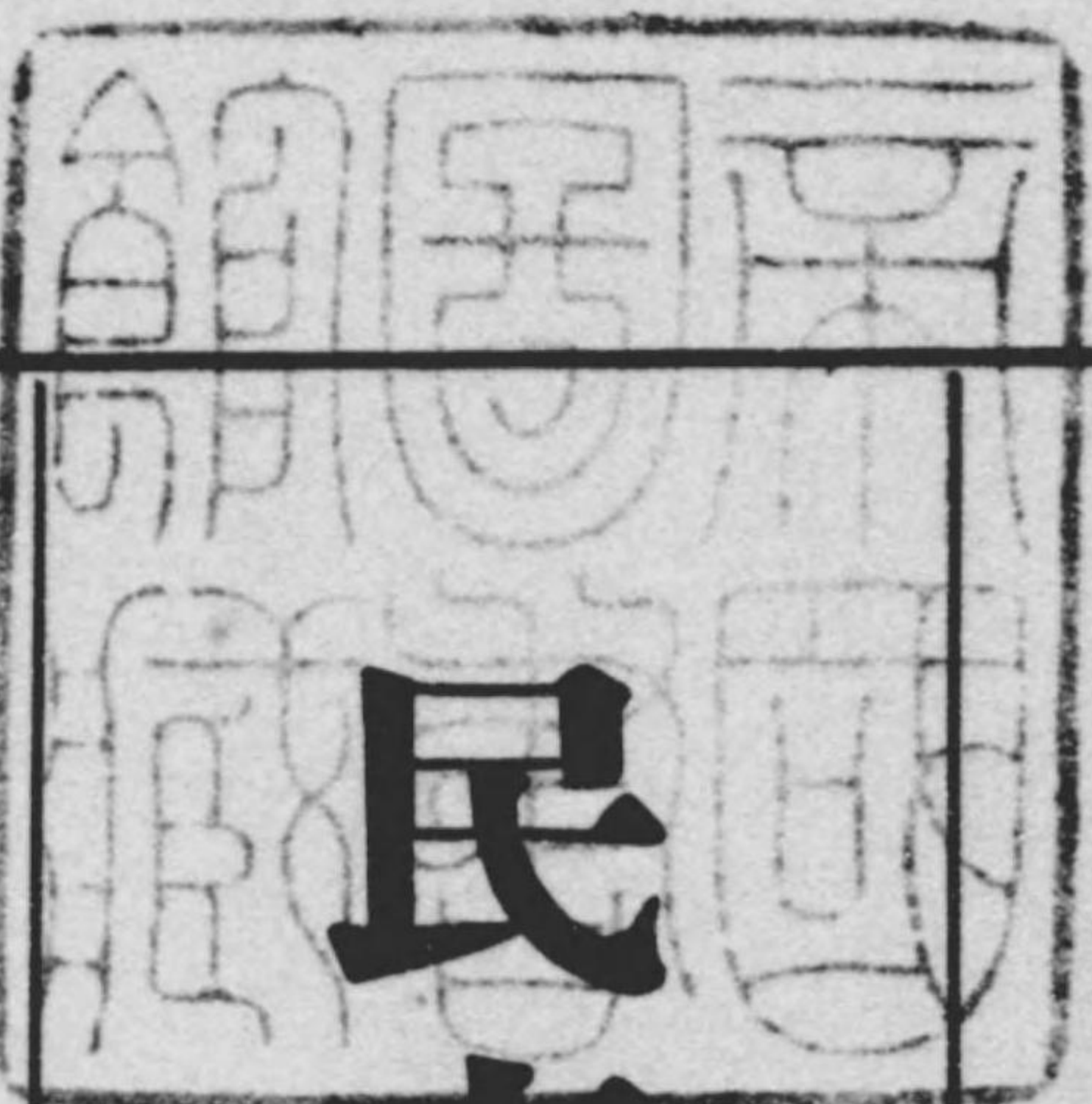


民事訴訟記録

東京 巖谷堂書店發兌

東京 巖谷堂書店發兌





# 民事訴訟記録

責任編輯者

大審院判事 細野長良  
大審院判事 井野英一

東京 巖松堂書店發兌





637-158

序

曩日 京都帝國大學ノ山田(正三)教授東京帝國大學ノ菊井(維大)教授兼子(一)助教授早稻田大學ノ中村(宗雄)教授ト大審院ノ神谷(健夫)判事等外私共ガ會合ノ際民事訴訟法ヲ教ヘルニ付參考トスベキ宜キ摸擬訴訟記録ヲ低廉ナル費用ヲ以テ學生ニ頒ツ事ガ出來ヌデアラウカト云フ話ガ出種々協議ヲシタ事ガアリマスガ其ノ時私共ガ一ツ裁判所部内ノ者デ組織ヲシテ居ル民事訴訟法研究会ニ相談シテ其ノ會デ此ノ事業ヲ完成シテ見タイト御引受ヲシテ之ヲ研究会ニ計リ幸ニ會員諸君ノ御賛同ヲ得前記ノ諸氏及東京控訴院尾高(武治)判事東京地方裁判所黒川(眞前)三野(昌治)兩部長並ニ河本(喜代)之判事並ニ大審院書記諸君ノ御援助ヲ得テ編纂シ得タノガ此ノ書物デアリマス勿々ノ際素ヨリ其ノ内容ハ完璧ヲ期スル事ハ出來マセンデシタガ先ヅ大



ニ於テ満足スベキ結果ヲ得殊ニ前記ノ要件モ満足シ得ル様ニ  
出來上ツタノハ全ク之ニ御關係下サツタ諸君ノ御助力ニ外ナ  
ラヌト感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス各大學ニテ採用セラ  
レ困難ナ民事訴訟法教授ノ實蹟ヲ舉ゲラルル一助トモナリ又  
實務ヲ修習セラルル人々ノ御參考トモナル事ヲ得バ幸ト存ジ  
マス尙將來ハ大方ノ御叱正ヲ得テ追々訂正増補ヲシテ行キタ  
イト考ヘテ居リマス學者實務家諸彦ニ於カセラレ御氣付ノ點  
モアラバ御注意ヲ願ヒ度イト思ヒマス

昭和八年四月一日

細野長良  
井野英一

## 凡例

- 一、本書ハ我カ七控訴院管内裁判所ニ通シ慣行セラレ居ル實例ヲ追ヒ編輯シタルモノニシテ書中ノ第一、二審裁判所名ヲ東京地方裁判所及同控訴院ト表示シタルハ便宜ニ從ヒタルモノニテ必スシモ同裁判所ノ取扱ヒ振リヲ全部踏襲シタルモノニ非ス
- 一、原告ヨリ訴狀ノ提出アル時ハ裁判所ハ先ツ之ヲ相手方ニ送達シ相手方ノ答辯書提出ヲ待チテ訴狀及答辯書ノ對照ニヨリ事件ノ繁簡ヲ知リ然ル後準備手續ヲ命スヘキモノナルモ實例ハ殆ト訴狀ノミニヨリ準備手續ノ要否ヲ決セルカ如シ
- 一、當事者ノ提出スル準備書面ハ民事訴訟法第二四三條ノ期間ヲ存シ裁判所ニ提出スヘキモノナルニ實例ハ往々準備手續期日又ハ口頭辯論期日ノ當日ニ提出セラルルコトアリ

以上



主任任事  
①

終保 期存	始保 期存	目 標 ノ 件 事		記 録 號	民事第一審訴訟記録
昭和 年 月	昭和 年 月	備 請 求	危 險 豫 防 設 損 害 賠 償 並	昭和六年(ワ)第一二三四號	
代 理 人	被 告	代 理 人	原 告	東京地方裁判所△民事部	
山 田 哲 夫	乙 山 二 郎	野 村 五 郎	甲 野 一 郎		



文書ノ標目	丁數	備考
訴狀	一	
委任狀	三	
甲第一號證	四	
同第二號證	五	
同第三號證	六	
送達報告書	八	
委任狀	一〇	
受送達者届書	一一	
答辯書	一二	
送達報告書	一四	
準備書面	一五	
同副本請書	一七	

種別	期日ノ指定	期日	裁判長	結果	種別	期日ノ指定	期日	裁判長	結果
	昭 和 六 年	十 月 二 十 五 日 午 前 九 時	國			月	日 午 時		
		十 二 月 十 五 日 午 前 九 時	國			月	日 午 時		
		十 二 月 二 十 三 日 午 後 一 時	國			月	日 午 時		
		十 二 月 二 十 八 日 午 前 九 時	國			月	日 午 時		
	昭 和 七 年	一 月 十 日 午 前 九 時	國			月	日 午 時		

告知方法  
 = 本命令ハ受命判事ノ氏名ヲ期日呼出狀  
 = 記載シ當事者雙方ニ告知ス

書記



準備書面	一八
證據申請	二〇
同	二三
乙第一號證	二五
同第二號證	二七
準備手續調書	二八
囑託書	三一
同回答書	三二
送達報告書	三三
囑託書	三七
同回答書	三八
口答辯論調書	三九
證人訊問調書(丸山貞一)	四一

同	四四
旅費日當拋棄屆	四七
旅費日當請求書	四八
照會書	四九
同回答書	五〇
送達報告書	五一
調書	五四
檢證調書	五五
鑑定人訊問調書(土木松太郎)	五八
鑑定書	六〇
日當手當請求書	六二
送達報告書	六三
口頭辯論調書	六五

(伊東太郎)



同	(言渡)	六七
判	決	六八
送達	報告書	七二
訴訟	記録送付書	七三
控	訴狀	七四
委	任狀	七七
送達	報告書	七八
答辯書	差出命令	七九
送達	報告書	八一
補	正命令	八二
送達	報告書	八三
上	申書	八四

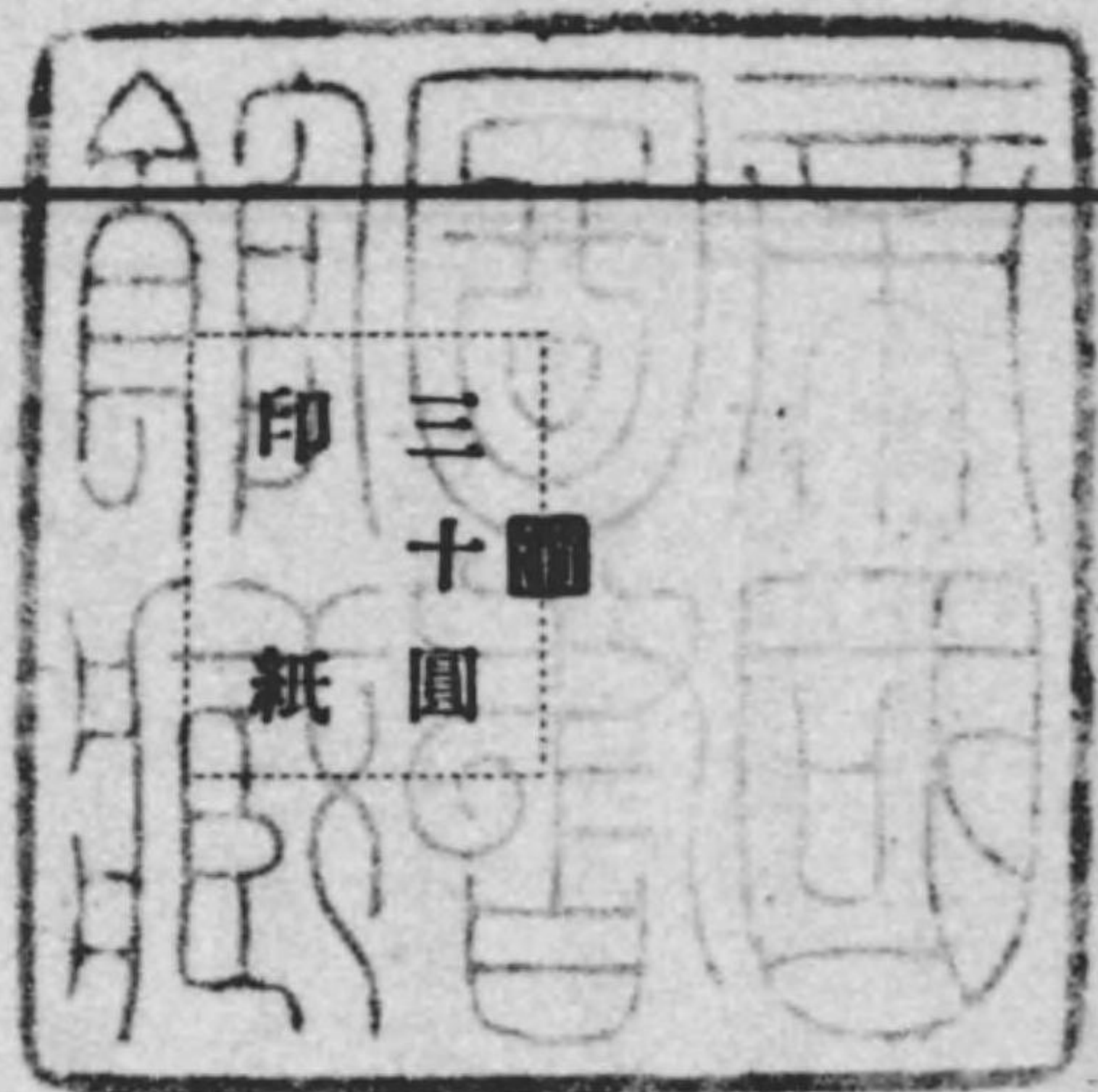
送達	報告書	八五
答	辯書	八六
委	任狀	八九
送達	報告書	九〇
記	録閲覧願	九一
口	頭辯論調書	九二
證	據申請	九四
訴訟	參加申立書	九五
新	甲第一號證	九八
同	第二號證	九九
委	任狀	一〇〇
送達	報告書	一〇一
期	日請書	一〇三



口頭辯論調書	一〇四
準備書面	一〇六
口頭辯論再開申請	一〇八
口頭辯論調書(言渡)	一〇九
判決	一一〇
送達報告書	一一三
上告狀	一一五
委任狀	一一八
訴訟記録送付請求書	一二九
送達報告書	一二〇
上告理由書	一二一
送達報告書	一二三

答辯書	一二五
委任狀	一二七
送達報告書	一二八
口頭辯論調書	一二九
同(言渡)	一三〇
判決	一三一
送達報告書	一三四
訴訟記録送付書	一三六





訴 狀

東京府下蒲田町女塚八百五十一番地

原告 甲 野 一

右訴訟代理人辯護士

野 村 五 郎

横濱市蒔田町六百二十五番地

被告 乙 山 二 郎

損害賠償並危険豫防設備請求ノ訴

此ノ訴訟價格 五千圓也

請求ノ趣旨

一、被告ハ原告ニ對シ金百圓ヲ支拂フヘシ

二、被告ハ其ノ所有ニ係ル東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林ト原告所有同所八百



A large rectangular area with a grid of vertical lines, likely a placeholder for a table or detailed text.



五十一番宅地トノ境界線近クノ勾配土層部ニ接シ右宅地ニ對スル危險豫防ノ爲六分乃至四分ノ勾配ヲ以テ土層ノ高サヲ上下ニ二分シソノ下部ヲ厚サ三尺五寸ノ鐵筋コンクリート裝置ヲ用ヒ上部ヲ厚サ三尺ノ花崗岩固メノ工法ヲ以テスル裝置ニヨル危險豫防設備ヲ爲スヘシ  
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

### 請求ノ原因

原告ハ東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地三百坪ノ土地ヲ所有シ之ニ住宅ヲ建設シ其ノ一部ヲ庭園トシ松杉等ノ庭樹ヲ植栽シ占有中被告所有同所八百五十二番山林七畝十五歩ノ土地ハ右原告所有地ノ北方ニ接シ其ノ相接スル部分二十間ヲ最高トシテ北方ニ傾斜セル地勢ナルトコロ被告ハ其ノ所有地ナル右山林中殊ニ原告所有宅地トノ境界近クヨリ昭和五年一月頃ヨリ同六年六、七月頃迄繼續シテ盛ニ土砂ヲ採掘他ニ搬出シ爲ニ境界線近クハ現在約四十尺乃至五十尺ニ近キ斷崖ヲ爲スニ至レリ而シテ右兩地ノ土層ハ軟弱ナル崩レ易キ土質ナルニヨリ被告ノ土砂搬出ノ爲メ原告所有地及其ノ地上

ニ存スル住宅ハ漸次崩壊スルノ状態ニ在リタルカ偶々去ル九月十日ノ大雨ニ遭遇スルヤ原告所有庭園ノ一部ハ遂ニ崩壊シ松杉等植樹五本ハ爲ニ枯死スルニ至レリ是被告カ原告所有宅地ノ崩壊ニ付原告屢次ノ請求アルニモ拘ラス何等危險防止ノ設備ヲ爲スコトナク自己ノ所有地ヨリ土砂ヲ採掘シタルニ職由スルモノナレハ原告ハ被告ニ對シ右庭園ノ一部崩壊並植樹枯死ノ爲ニ生シタル損害ノ賠償(請求趣旨第一)並ニ原告所有地ノ崩壊ヲ阻止スヘキ豫防設備(請求趣旨第二)ヲ求ムル權利アリ而シテ庭園ノ崩壊植樹枯死ノ損害ハ崩壊個所ノ修理費三十圓植樹五本七十圓計百圓ヲ相當トシ危險豫防設備ニ付テハ請求趣旨第二記載ノ方法ヲ以テ適當ナリト信シ本訴ニ及ヒタル次第ナリ

### 證據方法

甲第一、二號證土地登記簿抄本

右ヲ以テ東京府下蒲田町女塚八百五十一番ノ宅地カ原告ノ所有ニシテ同所八百五十二番山林カ被告ノ所有ナル事實ヲ證ス

甲第三號證庭師庭尾築郎ノ受取書



右ヲ以テ庭園ノ崩壞並ニ其ノ修理費用三十圓ナル事實ヲ證ス  
證人庭尾築郎及鑑定人ヲ以テ庭園樹木崩壞及ソノ損害額並ニ原告所有地ニ崩壞ノ危険  
アル事實ヲ證ス

附 屬 書 類

甲第一、二、三號證 各壹通  
委任狀 壹通

昭和六年十月二日

右原告代理人

野 村 五 郎 印

東京地方裁判所長

□ □ □ □ 殿

二 錢  
收入印紙

訴訟代理委任狀

拙者儀東京地方裁判所所屬辯護士野村五郎ヲ以テ訴訟代理人ト定メ左ノ事項ヲ委任ス

一、拙者ヨリ被告乙山二郎ニ對スル損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ關スル一切  
ノ訴訟行爲

二、民事訴訟法第八十一條第二項ニ關スル一切ノ件

三、辨濟ノ受領ニ關スル一切ノ件

四、代理供託並供託元利金ノ還付申請、受領一切ノ件

右訴訟代理委任狀仍而如件

昭和六年十月二日

甲 野 一 郎 印



甲第一號證

登記簿抄本

登記第六號

一、不動産ノ表示

東京府下蒲田町女塚八百五拾壹番

一、宅地參百坪

一、所有者ノ表示

東京府下蒲田町女塚八百五拾壹番地

甲 野 一 郎

此抄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和六年九月二十五日



東京區裁判所蒲田出張所  
裁判所書記  
澁谷太郎  
印

甲第二號證

登記簿抄本

登記第貳百參拾五號

一、不動産ノ表示

東京府下蒲田町女塚八百五拾貳番

一、山林七畝拾五步

一、所有者ノ表示

横濱市蒔田町六百貳拾五番地

乙 山 二郎

此抄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス  
昭和六年九月二十五日



東京區裁判所蒲田出張所

裁判所書記

印

遊

谷

太

郎

印

甲第三號證

領收證(寫)

一金參拾圓也

但甲野様方崩壞庭園ノ修理ノ爲土砂五車分貳拾五圓及手間賃二日分五圓

右正ニ請取候也

昭和六年九月三十日

右庭園師

庭尾築郎

甲野一郎様



本件準備手續ニ付受命判事ヲ判事  
地上七郎ト指定ス

裁判長判事印

本件準備手續期日ヲ來ル十月二十五日午前  
九時ト指定ス  
昭和六年十月五日

受命判事印







送達手數料  
金 十 錢

送 達 報 告 書

受送達者 原告代理人 野村五郎宛		送達書類ノ表示 東京地方裁判所昭和六年(ワ)第一、二、三、四號 損害賠償並危險豫防設備請求事件ノ 昭和六年十月二十五日午前九時準備手 續期日呼出狀 壹通 東京地方裁判所書記課發				民事部
		書類受領者ノ記名 野村五郎印	送達ノ年月日時 昭和六年十月七日 午後一時—分	送達ノ場所 西日比谷 野村辯護士法律事務所	職第 號	
右之通送達候 昭和六年十月七日 東京區裁判所執達吏 執達吏代理 佐山正二印		送達ノ方法 左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其場ニ差置タリ	山里景一			



二 錢  
印 紙

訴訟代理委任狀

拙者儀横濱地方裁判所所屬辯護士山田哲夫ヲ訴訟代理人トシ左記ノ事件ニ關スル一切ノ訴訟行爲ヲ代理爲致候事

一、原告甲野一郎ヨリ拙者ニ係ル東京地方裁判所昭和六年ワ第一、二三四號損害賠償並危險豫防設備請求訴訟事件ニ關スル訴訟行爲一切

尙復代理人ノ選任及民事訴訟法第八十一條第二項ノ權限ヲモ授與ス  
右代理委任狀仍而如件

昭和六年十月十日

乙 山 一 郎 印



昭和六年(ワ)第一、二三四號

送達場所及ヒ送達受取人届

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎



右當事者間損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ付送達ヲ受クヘキ場所及ヒ送達受取人ヲ左ノ通相定候間此段御届候也

一、送達ヲ受クヘキ場所

東京市麴町區西日比谷一 大澤八郎方

一、送達受取人 大 澤 八 郎

昭和六年十月十四日



原告ノ請求ヲ棄却ス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス  
トノ御判決相成リ度候

事 實

一、被告カ東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林七畝十五歩ヲ所有スルコトハ認ム隣地八百五十一番ノ土地カ原告ノ所有地ナル事實並ニ去ル九月十日大雨ノ際原告ノ庭園ノ一部崩壞シ植樹五本枯死シタル事實ハ共ニ不知、被告ハ原告主張ノ損害賠償及ヒ危険豫防設備請求ヲ争フ

一、抑々本訴東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林ハ被告ニ於テ昭和六年三月五日訴外丸山貞一ヨリ買受ケタルモノナル所右丸山ハ其ノ所有時代訴外伊東太郎ニ右山林中原被告所有地ノ境界線ヲ去ル四五間ノ箇所ヨリ北通路ニ達スル部分ヲ限定シテ土砂採掘ヲ許諾シ爾來太郎ハ被告ノ買受後タル昭和六年六、七月頃迄其ノ採掘

搬出ヲ繼續シタル事實ニシテ右太郎ノ採掘ニハ被告ハ全然關與セサル所ナリ而カモ丸山ノ許諾シタル前記ノ區域ハ之ヲ掘リ崩スモ原告所有地ニ危険ヲ及スコト無ク從テ本年九月十日大雨ノ際原告宅地ニ若干損害アリシトスルモ之カ原因ニ非ス又假令土砂ノ採掘カ原告主張ノ如ク右損害發生ノ原因トナリ且ツ原告所有地崩壞ノ危険アリトスルモ其ノ原因行爲ニ被告ハ全然關與セサルモノナレハ被告ニ對スル原告ノ本訴請求ハ全部失當ナリ

一、添附書類 委任狀壹通

右答辯候也

昭和六年十月十四日

被告代理人 山 田 哲 夫 印



東京地方裁判所第△民事部  
 裁判長判事 天川 一郎 殿

昭和 年度  
 職(サ)第二八號  
 一金拾錢 手數料  
 旅費  
 合計

送達報告書

東京地方裁判所第△民事部

職第 號

送達書類	送達年月日時	送達場所	送達者	受送者
東京地方裁判所昭和六年(ワ)第一、二三四號 損害賠償並危険豫防設備請求事件ノ 答辯書一通	昭和六年十月十六日 午前十一時 分	當執達吏役場	野村 五郎 印	原告代理人 野村 五郎 宛
東京地方裁判所書記課發				

右之通送達候

東京區裁判所執達吏

佐藤道夫代理

昭和六年十月十六日

佐山 正一 印



準備書面

原告 甲野一郎  
被告 乙山二郎



右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二三四號損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ付原告ノ主張事實ヲ明瞭ナラシムル爲メ準備書面ヲ提出スルコト左ノ如シ

一、被告ハ被告所有山林ノ土砂ノ採掘搬出ハ第三者ノ所爲ニシテ被告ノ關與セサルコトナリト主張スルモ原告ハ之ヲ争フ且ツ假令第三者ノ所爲ナリトスルモ被告所有山林ノ土砂ノ採掘搬出サレタルハ事實ニシテ其ノ事實ノ爲ニ右山林ニハ大ナル陥没ヲ生シ從テ原被告境界線近クハ斷崖ヲ形成シ殊ニ原告居住地域ハ他縣ニ比スレハ雨量多ク隣地ヲ斷崖ノ儘放置スレハ當然原告宅地ノ崩壞ヲ來スヘキハ其ノ數ニ



シテ爲メニ原告所有地ニ去ル九月十日ノ如キ崩壊ノ危険ヲ生セシメタルモノナリ  
而シテ又將來益斯ル危険ノ發生ヲ見ルコト火ヲ睹ルヨリモ明ナリ抑モ隣地間ニ於  
テ一土地ノ陥没状態ニヨリ之ニ接スル隣地ニ危険發生シ又發生スルコトアルヘキ  
時ハ陥没ヲ生セシメタル者ノ如何ヲ問ハス隣地所有者ハ其ノ陥没ノ爲メニ發生シ  
タル損害ヲ賠償シ且ツ將來ノ危険豫防ノ設備ヲ爲スヘキハ其ノ責任ナリト思料ス  
一、尙去ル九月十日大雨ノ際ノ損害ハ左ノ如シ

庭園ノ一部崩壊箇所ハ原告ニ於テ土砂五車ヲ以テ之ヲ修補シタリ其ノ價格一車五  
圓計二十五圓、庭園師二日分手間代五圓、合計三十圓  
枯死セル樹木ハ十二年生松二本其ノ價格一本十五圓計三十圓、十五年生杉二本縦  
一本其ノ價格杉一本十圓椏一本二十圓計四十圓、總計百圓也

昭和六年十月十六日

以上

右原告代理人

野村五郎 印

東京地方裁判所第△民事部

御中



昭和六年(ワ)第一、二三四號

準備書面請書

原告代理人提出昭和六年十月十六日附準備書面副本一通  
右正ニ御請候也

昭和六年十月十六日

右被告代理人

山田

哲

夫印





昭和六年(第一、二三四號)

副本領收

之野村印

準備書面

原告 甲野一郎  
被告 乙山二郎



右當事者間損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ付被告ハ準備書面ヲ提出スルコト左ノ如シ

一、被告所有地ノ土砂ノ採掘ハ伊東太郎ノ所爲ニシテ右太郎ハ被告ノ前主丸山貞一ヨリ原告境界線ヲ去ル四五間ノ箇所ヨリ道路ニ面スル地域ト限界シテ許容セラレタルモノナリ而シテ實際ニ於テモ右太郎ハ境界線ヲ去ル四五間ノ箇所ヨリ採掘セリ故ニ原告主張ノ如キ原告所有宅地住宅ノ崩壊ノ虞ナシ



一、原告ノ請求スル本年九月十日ノ大雨ニ因ル原告所有庭園等崩壊ノ爲メニ生シタル金百圓也ノ損害賠償ハ原告ニ於テ被告ノ不法行爲ヲ原因トシテ請求スルモノナリヤ或ハ原告ノ有スル物上請求權ニ基クモノナリヤ原告ノ主張自體ニヨリテハ不明ナリ前者ナリトセハ原告ニ於テ被告ニ故意若クハ過失ノ存在ヲ主張立證スルヲ要ス然ルニ原告ハ何等斯ル主張ヲ爲シタルコトナシ又後者ナリトセハ物權ノ性質上直接毀損行爲ヲ爲シタル者即直接土砂ノ採掘ヲ爲シタル伊東太郎ニ之カ責任アルモノニシテ單ナル隣地所有者タル被告ニ對シ之カ請求ヲ爲スハ失當ナリ抑モ本訴山林ノ土砂ノ採掘搬出ハ被告ノ前主ノ許可ヲ得タル伊東太郎ノミノ行爲ニ係リ被告ハ單ニ被告カ其ノ所有權ヲ取得後之ヲ默認シ居タルニ過キス故ニ被告ニ對シテ侵害行爲者トシテノ物上請求權ノ行使ハ失當タルヲ免レス

一、原告ハ又損害金百圓也ノ請求ヲ爲スモ被告ニ於テハ右ノ損害ハ去ル九月十日ノ大雨ノ性質上不可抗力ニ基因スルモノニシテ決シテ被告所有土地ノ土砂採掘カ直接原因ニ非サルコトヲ主張ス同日ノ大雨ハ大風ヲ伴ヒ近年稀ニ見ルノ大暴風雨ニ

シテ附近一帶ニ樹木等ノ倒潰枯死シタル事實アリ又假令右ノ損害ハ不可抗力ニ因ルニ非ス被告所有地ノ土砂採掘ニヨルモノニシテ被告之カ賠償責任アリトスルモ其ノ額ハ過當ナルニ付被告ハ之ヲ爭フ

以上

昭和六年十月二十日

右被告代理人辯護士 山 田 哲 夫 印

東京地方裁判所第△民事部

御 中



昭和六年(ノ)第一、二三四號

證據ノ申出

印紙  
一圓

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間損害賠償並危險豫防請求事件ニ付原告ハ左ノ如ク證據ヲ申出候也

書證ノ申出

東京府下蒲田町役場ニ對シ府下蒲田町女塚八百五十一番宅地及八百五十二番山林ノ記載アル圖面ノ送付ヲ同役場ニ囑託相成リ度シ

右圖面ヲ以テ兩土地ノ境界線ノ模様及土砂探掘ニ依ル原告所有宅地ノ危險ナル事實ヲ立證ス



檢證ノ申出

東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地ト同所八百五十二番山林トノ隣接關係及右山林ノ土砂採掘ノ爲メ原告所有宅地カ一部崩壊シ又將來崩壊ノ危險十分ニ存スル事實ヲ右同所ニ御出張ノ上現場ノ模様檢證相成リ度シ

鑑定ノ申出

一、本件原告所有地ハ被告所有山林ノ土砂採掘ニ依リ崩壊ノ危險アリヤ  
一、若シ危險アリトセハ崩壊ヲ防クニ付原被告所有地ノ境界線ニ接シ如何ナル施設ヲ必要トスルヤ

右ノ事項ニ付鑑定人一人ヲ選任ノ上現場ニ付鑑定ノ御命令相成リ度シ

證人訊問ノ申出

證人ノ表示

横濱市鶴見區潮田八百五十二番地

伊 東 太 郎

東京府下蒲田町女塚二十番地

庭 尾 築 郎

訊問事項(證人伊東ノ分)

一、證人ハ東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林ヨリ土砂ヲ採掘搬出シタリヤ  
一、搬出セリトセハ何時頃ヨリ始メシヤ又何程ヲ搬出セリヤソノ搬出ハ被告ノ指圖ニヨルモノナリヤ

一、其ノ他以上ニ關聯スル一切ノ事項

右證人ヲ以テ被告カ其ノ所有山林ヨリ土砂ヲ採掘搬出セシメタル事實ヲ立證ス



訊問事項（證人庭尾ノ分）

- 一、證人ハ植木職ヲ業トシ且諸所ノ庭園ノ修理等ヲ爲シ居ルヤ
  - 一、證人ハ本年九月三十日原告方ノ庭園ノ修理ヲ爲シタルコトアリヤ
  - 一、右庭園ノ崩壊ノ模様詳細及右ノ崩壊ハ本年九月十日ノ大雨ノ際生シタルモノナリヤ
  - 一、右修理費用ハ何程ナリヤ
  - 一、原告庭園ニ植エアリシ松杉樅等ノ植樹枯死セリト云フカ如何、右枯死ハ庭園ノ崩壊カ直接原因ナルヤ及枯死セル樹木ノ本數及價格如何
  - 一、以上ニ關聯シタル事項
- 右證人ヲ以テ本年九月十日ノ際ニ原告宅地ノ崩壊シタル事實及ソノ損害ヲ立證ス
- 以上
- 右證據申出候也

昭和六年十月二十一日

右原告代理人

野村五郎 印

東京地方裁判所第△民事部

御中



昭和六年(ワ)第一、二三四號

證據ノ申出

印  
紙  
一  
圓

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間損害賠償等請求事件ニ付被告ハ左ノ如ク證據ヲ申出候也

鑑定ノ申出

本訴繫争山林現場ニ於テ左記事項ニ付鑑定人一人ヲ選任ノ上鑑定ノ御命令相成リ度シ

鑑定事項

一、東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地ト同所八百五十二番山林トノ境界線ト右山



林ノ土砂採取上壁線トノ平面間隔ハ幾何ナリヤ  
一、右現場ハ現場ノ儘放置スル時ハ右境界線以南即八百五十一番宅地迄モ崩壊スルヤ  
但天災地變トモ稱スヘキ原因ハ之ヲ除外ス

以上

證人訊問ノ申出

證人ノ表示

横濱市鶴見區潮田八百番地

丸山貞一

訊問事項

一、證人ハ東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林ヲ被告ニ賣渡シタリヤ、其ノ年月日  
及其ノ代金如何

一、證人所有中横濱市鶴見區潮田ノ伊東太郎ニ右山林ヨリ土砂ノ採掘搬出ヲ許容シタ  
リヤ、ソノ許容シタル地域如何  
一、證人ハ右土地ノ管理及其ノ土砂採掘ノ事ヲ被告ヨリ依頼セラレタルヤ  
一、其他右ニ關スル事實一切  
右證人ヲ以テ被告カ本件土砂ノ採掘ニ全然關與セサル事實ヲ立證ス

以上

右證據申出候也

昭和六年十月二十三日

右被告代理人

山田哲夫 印

東京地方裁判所第△民事部

御中



乙第一號證 證據物寫

登記 番號	第貳百參拾五號
表示 番號	表題部(不動產表示)
表示 欄	壹 一、受附 大正拾年五月拾日 一、物件 東京府蒲田町女塚 八百五拾貳番 山林 七畝拾五步 右登記ス 以下餘白
表示 欄	
表示 欄	



甲	順位	事項欄	順位	事項欄	順位	事項欄
	六	(中略) 移 轉 一、受附 昭和六年參月五日 第壹貳八番 一、原因 同月五日賣買 一、取得者 横濱市蒔田町六百 貳拾五番地 乙 山 二 郎 右登記ス				

此ノ謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス  
昭和六年拾壹月貳拾日

印

東京區裁判所蒲田出張所

裁判所書記

澁谷太郎 印

右正寫候也

昭和六年十月二十三日

被告代理人 山田哲夫 印

東京地方裁判所第△民事部

御 中



乙第二號證 證據物寫

印紙

賣渡證

申請書	年月日	昭和六年參月五日
受付番	號	第壹貳八番

一金貳千圓也

右ハ前記金額ヲ以テ拙者所有ノ末尾記載ノ物件ヲ貴殿へ賣渡シ金員正ニ領收仕候儀實正也該物件ニ對シ他ヨリ故障等一切無之候若シ故障等相生シ候節ハ損害賠償ノ請求ニ應シ可申候爲後日賣渡證仍而如件

昭和六年參月五日

橫濱市鶴見區潮田八百番地

賣渡人 丸山貞一 印



横濱市蒔田町六百貳拾五番地

乙 山 二 郎 殿

物件ノ表示

東京府下蒲田町女塚八百五拾貳番

一、山林七畝拾五歩

登記番號	第貳百參拾五號
順位番號	甲區第六番

右正寫候也

昭和六年十月二十三日

被告代理人

山 田 哲 夫 印

東京地方裁判所第△民事部

御 中

準備手續調書

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間昭和六年(ワ)第一、二、三、四號損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ付昭和六年十月二十五日午前九時東京地方裁判所第△民事部準備手續室ニ於テ

受命判事 地 上 七 郎  
裁判所書記 平 田 義 夫

列席ノ上事件ノ呼上ヲ爲シタルニ

原告代理人 野 村 五 郎  
被告代理人 山 田 哲 夫

各出頭シタリ



右準備手續ニ於テ明確ニスル事項左ノ如シ  
原告代理人ハ訴狀並昭和六年十月十六日附準備書面ニ基キ請求ノ趣旨並ニ原因ヲ陳述  
シタリ

被告代理人ハ原告ノ請求棄却ノ判決ヲ求メ答辯書並ニ昭和六年十月二十日附準備書面  
ニ基キ答辯シタリ

原告代理人ハ受命判事ノ釋明ニ基キ

本訴請求ハ原告ノ所有權ヲ原因トスルモノナリ尙土砂ノ搬出ハ昭和六年六、七月  
頃迄ハ頻繁ナリシカ現在ニ於テモ中止シタルニ非ス以前程頻繁ナラサルモ時々搬  
出シ居レリト陳述シタリ

被告代理人ハ本訴ノ八百五十二番山林ハ被告カ其所有權取得以前既ニ前所有者カ訴外  
伊東太郎ニ其ノ土砂搬出ヲ許容シタルヲ原告ニ於テ之ヲ默認シ居タルモノナリ而  
シテ右太郎ハ現在ハ全然土砂搬出ヲ中止シ居レリト述ヘ、尙土砂搬出ノ地域ハ原  
被告所有地ノ境界線ヨリ四五間ノ距離ヲ存シ右土質ハ小石混リノ粘土質ヨリ成リ

原告主張ノ如ク崩壊ノ憂之無ク去ル九月十日大雨ノ際原告ノ庭園カ一部崩壊シタ  
リトセハソハ右土砂搬出ノ爲ニ發生シタルモノニ非ス要スルニ假令原告主張ノ如  
キ危険アリ又崩壊シタリトスルモ被告ハ其ノ原因行爲ニ全然關與セサルモノナレ  
ハ何レノ點ヨリスルモ原告ノ請求ハ不當ナリト陳述シタリ

原告代理人ハ假ニ危険發生カ他人ノ行爲ニ基因ストスルモ既ニ危険事實カ存シ且ツ實  
害アリシ以上所有者タル被告ニ於テ之カ賠償ヲ爲シ且ツ爾後ノ危険防止ノ義務ア  
リト陳ヘ尙被告ノ右山林ノ所有權取得ノ時期ハ不知ト陳ヘ

甲第一號證及同第二號證(曩ニ訴狀ト共ニ甲第三號證トシテ提出シタルヲ甲第二  
號證トシテ提出ス)ヲ提出シ東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地カ原告ノ所有  
ナル事實及原告ノ崩壊シタル庭園ノ修理費用ヲ立證スト陳ヘ尙證據ノ申出トシテ  
別紙書面ニ基キ書類ノ取寄、檢證、鑑定及證人伊東太郎、庭尾築郎ノ訊問ノ申出  
ヲ爲シタリ

被告代理人ハ甲第一號證ハ成立ヲ認メ同第二號證ハ否認シタリ原告代理人ノ證據ノ申



出ニ就テハ異議ナシト陳ヘ

乙第一、二號證ヲ提出シ被告カ本訴山林ヲ買受ケタル時期ヲ立證スト陳ヘ更ニ別紙書面ニ基キ鑑定及證人丸山貞一ノ訊問ノ申出ヲ爲シタリ

原告代理人ハ乙第一號證ノ成立ヲ認メ同第二號證ハ不知ト陳ヘ被告代理人ノ證據ノ申出ニ就テハ異議ナシト陳ヘタリ

受命判事ハ準備手續ヲ終結スル旨ヲ告知シタリ

東京地方裁判所第△民事部

裁判所書記 平 田 義 夫 印

受命判事 地 上 七 郎 印

本件口頭辯論期日ヲ昭和六年十二月十五日午前九時ト指定ス

昭和六年十一月二十五日

裁判長判事 印

當事者雙方ニ對シ其申出テタル證據調ノ費用ヲ七日内ニ豫納スヘキコトヲ命ス

昭和六年十一月二十五日

裁判長 判事 判事 印

左記證人ノ呼出ヲ爲ス

丸 山 貞 一  
伊 東 太 郎  
庭 尾 築 郎

職權ヲ以テ東京中央氣象臺ニ昭和二年ヨリ同六年迄ノ毎年最大雨量通知方囑託ヲ爲ス原告申出ノ書類ノ取寄囑託ヲ爲ス



囑託書(案)

東京地方 裁判所	昭和六年(ワ)第一、二三四號 第一九三號
-------------	-------------------------

昭和六年十一月二十五日

東京地方裁判所第△民事部

裁判長判事 天 川 一 郎

東京中央氣象臺 御中

原告甲野一郎被告乙山二郎間昭和六年(ワ)第一、二三四號損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ付事件處理ニ付必要有之候條左記事項調査ノ上御回報相煩度及囑託候也

左 記 事 項

一、昭和二年ヨリ昭和六年十月ニ至ル迄ニ於ケル各年中ノ最大雨量



氣測第二三號

昭和六年十一月二十八日

東京中央氣象臺

東京地方裁判所第△民事部

御中

降雨量ノ件回答

本月二十五日附日記第一九三號ヲ以テ御照會ニ係ル雨量ノ件左記ノ通りニ候條此段及  
回答候也

記

昭和二年度ニ於ケル最大雨量

百五十耗





同	三年度	同	上	百四十耗
同	四年度	同	上	百六十耗
同	五年度	同	上	百三十耗
同	六年十月迄			百五十耗

以上

送達報告書

一 送達書類 (昭和六年十二月十五日午前九時ノ口頭辯論期日呼出狀及費用豫納決定  
正本各一通)

一 受送達者 原被告雙方代理人

前記書類ハ之ヲ昭和六年十一月二十五日午後一時右受送達者ニ對シ當廳  
書記課ニ於テ直接交付シテ送達ヲ爲シタリ

昭和六年十一月二十五日

東京地方裁判所第△民事部

裁判所書記	平	田	義	夫	印
原告代理人	野	村	五	郎	印
書類受領者	山	田	哲	夫	印
被告代理人	同				



昭和六年 (ワ) 第一、二三四號

郵便送達報告書

<p>送達スヘキ書類ノ表示 一、封書 一通 但昭和六年十二月十五日午前九時 證人呼出狀及訊問事項 東京地方裁判所書記課發 受送達者 伊東太郎宛</p>		<p>書類受領者ノ 署名又ハ捺印 伊東</p>
<p>一 受送達者本人ニ渡シタリ</p>	<p>二 受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ 渡シタリ</p>	<p>三 左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタル ニ付其ノ場ニ差置キタリ</p>
<p>事務員</p>	<p>同居者</p>	<p>事務員</p>
<p>雇人</p>	<p>同居者</p>	<p>雇人</p>
<p>同居者</p>	<p>送達ノ年月日時 昭和六年十一月二十七日 午後一時十分</p>	<p>送達ノ場所 横濱市鶴見區潮田本人自宅</p>

右ノ通送達候

昭和六年十一月二十七日

横濱郵便局

集配手 武本金次 印

注意

書類受領者署名又ハ捺印不能ノ時ハ該署名捺印欄ニ其旨記入ノコト  
送達ノ場所欄ニハ市町村字番地ヲ詳記ノコト、(CINCINNATI)ノ欄中不要ノ欄ハ抹消ノコト







昭和六年 (7) 第一、二三四號

郵便送達報告書			
一		二	
書類受領者ノ署名又ハ捺印		受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ	
庭尾築郎 印		事務員	
受送達者庭尾築郎宛		雇人	
東京地方裁判所書記課發		同居者	
一、封書 一通			
但昭和六年十二月十五日午前九時			
證人呼出狀及訊問事項			
三		左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其ノ場ニ差置キタリ	
受送達者		事務員	
雇人		同居者	
送達ノ年月日時		昭和六年十一月二十八日 午後一時一分	
送達ノ場所		本人自宅	
右ノ通送達候			
昭和六年十一月二十八日			
蒲田郵便局			
集配手 道尾一郎 印			

注意 書類受領者署名又ハ捺印不能ノ時ハ該署名捺印欄ニ其旨記入ノコト  
送達ノ場所欄ニハ市町村字番地ヲ詳記ノコト、(XXXXXX)ノ欄中不要ノ欄ハ抹消ノコト



囑託書 (案)

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二三四號損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ付左記書類御送付相成度此段及囑託候

追テ本件口頭辯論期日ハ十二月十五日ニ有之候

昭和六年十一月二十六日

東京地方裁判所第△民事部

裁判長判事 天 川 一 郎

東京蒲田町役場 御中

記

東京府下蒲田町女塚八百五十一番同所八百五十二番及其ノ附近地圖



乙第一八二號

昭和六年十一月三十日

東京蒲田町役場印

東京地方裁判所第△民事部

御中

本月二十六日附昭和六年(ワ)第一、二、三、四號事件ニ付囑託相成候圖面一葉別紙及送付候也





口頭辯論調書

原告 甲野一郎  
被告 乙山二郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二、三、四號損害賠償並危險豫防設備請求事件ニ付昭和六年十二月十五日午前九時東京地方裁判所第△民事部法廷ニ於テ

裁判長判事 天川一郎

判事 地 上 七 郎

判事 人 見 三 郎

裁判所書記 平 田 義 夫

列席ノ上辯論ヲ公開ス  
事件ノ呼上ヲ爲シタルニ



原告代理人 野村 五郎

被告代理人 山田 哲夫

各出頭

證人 庭尾築郎、同 丸山貞一、同 伊東太郎出頭

右口頭辯論ニ於テ明確ニスル事項左ノ如シ

原告代理人ハ

訴狀記載ノ請求趣旨第一ノ請求即金百圓ノ損害賠償ノ訴ハ之ヲ取下ケ危險豫防請求ノミヲ訴求ス從テ證人庭尾築郎ノ證人訊問申出及甲第二號證ノ證據方法ハ之ヲ拋棄スト陳ヘ

被告代理人ハ右取下ニ同意シタリ

當事者雙方代理人ハ

準備手續調書記載ニ基キ右取下ケラレタル部分ヲ除キ準備手續ノ結果ヲ陳述シタリ

裁判長ハ

別紙調書ノ如ク證人丸山貞一、伊東太郎ヲ訊問シ尙雙方代理人申出ノ鑑定原告代理人申出ノ檢證ヲ採用シ其ノ證據調ハ右檢證現場ニ於テ裁判所之ヲ爲ス次回期日ハ追而指定スト告ケタリ

裁判所書記 平 田 義 夫 印

裁判長判事 天 川 一 郎 印

證據調期日ヲ來ル十二月二十三日午後一時ト指定ス

昭和六年十二月十六日

裁判長判事 印



調 書

證人 丸山貞一

證人ハ

- 一、氏名 丸山貞一
- 一、年齢 五十歳
- 一、職業 無職
- 一、住所 横濱市鶴見區潮田八百番地

ト陳述シタリ

裁判長ハ宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ偽證ノ罰ヲ警告シ別紙宣誓書ノ朗讀ニ依リ宣誓ヲ爲サシメタル上後ニ訊問スベキ證人ノ在ラザル所ニ於テ訊問ヲ爲シタリ

證人ノ陳述左ノ如シ

一、證人ハ元證人所有ノ東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林ヲ昭和六年三月五日被



告ニ代金二千圓ニテ賣渡シタルコトアリ

一、元證人所有ノ右山林ハ隣地原告所有ノ同所八百五十一番宅地ト道路トノ間ノ傾斜地ニシテ春ノ雪解ケ時ヤ秋ノ降雨期等ニハ高地ノ原告方ノ雨水ヤ汚物カ右山林中ニ流レ込ミ植樹ソノ他ニ利用價值尠キ爲昭和五年一月末頃證人宅近クノ土工ノ頭目伊東太郎ナル者ト證人ノ間ニ伊東ニ於テ右傾斜地ヲ道路ト同シ高サノ平坦地ニ爲シ吳ルル様而シテ其ノ土砂ハ無償ニテ伊東ニ贈與スル様トノ交換條件ニテ話合カ出來伊東ニ土砂ヲ採掘セシメタリ其際被告傾斜地ノ土砂ヲ採掘搬出スレハ勢ヒ原告方ノ宅地ト被告ノ所有山林トノ間ハ斷崖ニナル事故證人ハ伊東ニ土砂掘崩シノ際隣地原告所有地カ崩壞セサル様注意シタルニ伊東ハ自分ハ斯様ナ仕事ニ慣レ居ルニ付隣地ヨリ苦情ノ出ル様ナ仕事ハセヌト申シ居リタルヨリ證人ハ安心シテ伊東ニ土砂採掘ヲ許シタル次第ナリソノ際伊東トハ別ニ原被告所有地ノ境界線ヨリ四五間離レタ所ヨリ採取スルト云フ話ハナカリシモ以上ノ様ニ隣地ヨリ苦情ノ出ヌ様ナ仕事ヲスルト云フ約束ナリシ

一、然ル所本年二、三月頃ヨリ原告ノ方ヨリ苦情アリタリト云フ話ヲ聞キタルニ付證人ハ伊東ニ土砂採掘ノ中止ヲ申出テ一方右土地ヲ所有スルノカ嫌ニナリシ故幸被告ノ所望ニヨリ本年三月五日拾値同様ノ二千圓ニテ同人ニ讓渡シタル次第ナリ

一、以上ノ次第ニテ土地ノ管理トカ土砂採掘ノ事等ヲ被告ヨリ依頼セラレタル事ハナキモ被告ニ於テモ土地ヲ平坦ニスルコトハ利益故伊東カ土砂ヲ掘リ崩スノヲ見テ見ヌ振リシテ居タルモノニハ非スヤト思料ス

裁判長ハ乙第二號證ヲ示ス

一、之ハ證人カ被告ニ右土地ヲ賣渡シタル時ノ賣渡證ナリ

被告代理人ノ求メニヨル裁判長ノ問ニ對シ

一、右證書(乙第二號證)ニ故障等相生シ候節ハ云々ノ記載ハ賣渡證ノ例文ニシテ本件ノ原告ヨリノ請求ヲ豫想シテ書入レタモノニ非ス

裁判所書記

平

田

義

夫

印

裁判長判事

天

川

一

郎

印



宣誓書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘  
セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓  
フ

證人 丸山貞一 印



調 書

證人 伊 東 太 郎

證人ハ

一、氏名 伊 東 太 郎

一、年 齡 四 十 二 歳

一、職 業 土砂採掘販賣業

一、住 所 横濱市鶴見區潮田八百五十二番地

ト陳述シタリ

裁判長ハ宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ偽證ノ罰ヲ警告シ別紙宣誓書ノ朗讀ニ依リ宣誓ヲ爲サシメタル上後ニ訊問スベキ證人ノ在ラザル所ニ於テ訊問ヲ爲シタリ

證人ノ陳述左ノ如シ

一、證人ハ土工頭ニシテ證人宅ニハ常ニ數人若クハ數十人ノ土工アリ土砂ノ搬出各所



ノ道路修理塵芥埋立等ヲ爲シ居レリ

一、證人ハ昭和五年一月頃被告ノ前主横濱市鶴見區潮田ノ丸山貞一ヨリ依頼セラレテ本件ノ東京府下蒲田町女塚八百五十二番ノ山林ヨリ土砂ヲ採掘搬出シ本年五、六月頃迄繼續シ居タリ

一、右山林ハ登記簿上ハ山林ナルモ實地ハ藪許リニテ樹木ト稱スヘキモノハ一本モナク依テ土砂ノ採掘場所トシテハ恰好ノ地所ナリシヨリ右丸山ノ依頼アルヤ證人ハ喜ンテ土砂ノ採掘搬出ヲ承諾シタリ其ノ際丸山ヨリ土砂ヲ掘リ崩セハ隣地ナル原告宅地トノ間カ斷崖ニナルカモ知レヌ然ル時ハ原告宅地ノ崩壊ノ虞アルヨリ其ノ點ハ充分注意シテ採掘シ吳レトノ話ニテ丸山ハ其ノ際原告宅地ト丸山ノ山林トノ境界線トシテ原告宅地ノ外圍ヒ即四ツ目垣ノアル箇所ヲ示サレタリ

一、以上ノ如ク丸山ノ依頼ニヨリ證人ハ右四ツ目垣ノアル箇所ヨリ數間離レタル場所ヨリ道路ニ向ヒ土砂ヲ採掘シタリ然シ證人ハ一、二度證人輩下ノ土工等ニ土砂採掘場所ヲ指示シテ夫等ノ者ニ採掘セシメタルモノニテ證人自ラ採掘搬出シタルモ

ノニ非レハ現場ハ如何ナル状態ナルヤ知ラス

一、兎ニ角證人ハ境界線ヨリ三四間離レタ箇所ヨリ漸次傾斜ヲ爲ス様ニ採掘スヘキ様輩下ノ土工ニ命シ置キタリ

一、右土砂ノ採掘搬出ハ傾斜地ノ一部ヲ道路ト同様平坦ニスル爲メナリシヨリ丸山ノ所有地ノ道路ニ面シタル部分ヨリ原告被告境界線ノ三四間手前迄ノ土砂全部ヲ搬出スル積リナリシモ本年五六月頃原告ノ方テ何カ紛争アリシトカニテ中止シ居レリ

一、證人ハ右山林ヲ被告カ買受ケタル事實ハ當時知ラサリシモ本年三月カ四月頃證人輩下ノ土工ヨリ聞キ知レリ

一、以上ノ次第ニテ土砂ノ採掘搬出ハ直接被告ノ指圖ニヨリシモノニハ非ルモ被告ハ之ヲ承知シ居タル事ハ事實ナリ

裁判所書記

平

田

義

夫

印

裁判長判事

天

川

一

郎

印



宣誓書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘  
セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓  
フ

證人 伊東太郎 印



證人旅費日當拋棄届

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間危険豫防設備請求事件ニ付本日證人トシテ御庭へ出頭致シ候處其ノ旅費及日當ノ請求ハ之ヲ拋棄致候也

昭和六年十二月十五日

右證人 丸 山 貞 一 印

東京地方裁判所第△民事部

御 中



請 求 書 (日當旅費)

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二三四號事件ノ證入トシテ昭和六年十二月十五日出頭  
致候日當及旅費給與相成度及請求候也

(住所) 横濱市鶴見區潮田八百五十二番地

昭和六年十二月十五日 (氏名) 伊 東 太 郎 印

東京地方裁判所第△民事部 御中

左記金額ヲ給與ス

昭和六年十二月十五日 (係官印) 印



一金貳圓貳拾錢也

內譯

金壹圓五拾錢也

日當壹日分

金七拾錢也

證人住所ヨリ御應迄ノ往復電車賃實費

前書ノ金額領收候也

昭和六年十二月十五日

右 伊 東 太 郎 印

日記第三一八號

(案)

昭和六年十二月十五日

東京地方裁判所第△民事部

裁判長判事 天 川 一 郎

内務省土木局 御中

鑑定人一人選任方ノ件照會

原告甲野一郎被告乙山二郎間昭和六年(ワ)第一、二、三、四號危險豫防設備請求事件ニ付左記事項鑑定ノ必要有之候條貴局内ニテ之カ鑑定ニ適スヘキ者一人選定ノ上至急御回報相煩度及照會候也

記

第一、(イ)、東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地下同所八百五十二番山林トノ境界線



ト右山林ノ土砂採取上壁線トノ平面間隔如何  
(ロ) 右現場ハ現状ノ儘放置スルトキハ土砂崩壊ノ虞アリヤ、アリトセハ其範圍等  
第二、土砂探掘ノ爲隣地八百五十一番ノ宅地ニ崩壊ノ虞アリヤ、アリトセハ其境界線  
ニ接シ如何ナル危険豫防ノ施設ヲ必要トスルヤ

以  
上

土第五三六號

昭和六年十二月十六日

内務省 土木局

東京地方裁判所第△民事部

裁判長判事 天川 一郎 殿

鑑定人選定ノ件

本月十五日附日記第三一八號ヲ以テ御照會ノ鑑定人選定方ニ關シ左記ノ者ヲ適任者ト  
存シ候條御了知相成度

記

東京府下蒲田町北蒲田二百六番地

當應土木技師 土木松太郎



送達報告書

東京地方裁判所 第△民事部

職第

號

送達書類ノ表示		送達ノ年月日時		書類受領者ノ記名捺印
東京地方裁判所昭和六年(ワ)第一、二、三、四號 危険豫防設備請求事件ノ昭和六年十二月 二十三日午後一時東京府下蒲田町女塚八 百五十二番山林現場ニ於ケル 證據調期日呼出狀 一通 東京地方裁判所書記課發		昭和六年十二月十七日 午後一時一分 西日比谷大澤八郎方		大澤八郎 印
受送達者	送達ノ場所	送達ノ方法	受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ	
被告代理人 山田哲夫宛	法方	送達	左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其場ニ差置タリ	

右之通送達候  
昭和六年十二月十七日

東京區裁判所執達吏執行正一代理  
田中玄持

印



送達報告書

東京地方裁判所第△民事部

職第 號

送達書類ノ表		送達ノ年 昭和六年十二月十七日		書類受領者ノ記名印
東京地方裁判所昭和六年(ワ)第一、二三四號 危険豫防設備請求事件ノ昭和六年十二月二十三日午後一時東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林現場ニ於ケル 證據調期日呼出狀 一通		送達ノ場 所	月日時 午後二時一分	事務員 神山甚作 印
受送者	原告代理人 野村五郎宛	送達ノ方 法	事務員 左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其場ニ差置タリ	
東京地方裁判所書記課發		送達ノ場 所	事務員 西日比谷野村法律事務所	
東京地方裁判所書記課發		送達ノ場 所	事務員 受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ	

右之通送達候  
昭和六年十二月十七日

東京區裁判所執達吏執行正一代理  
田中 立持 印



昭和六年 (ワ) 第一、二、三、四號

郵便送達報告書				
一		一、封書 一通 但昭和六年十二月二十三日午後一時東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林地内へ鑑定人トシテ出頭スヘキ期日呼出状 東京地方裁判所書記課發 受送達者 土木松太郎宛 書類受領者ノ署名又ハ捺印 土木松太郎 印		
二		左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其ノ場ニ差置キタリ 受送達者 事務員 雇人 同居者		
三		送達ノ年月日時 昭和六年十二月十八日 午後二時一分 送達ノ場所 東京府下蒲田町北蒲田本人住宅 右ノ通送達候 昭和六年十二月十八日 蒲田郵便局 集配手 久間太郎 印		
二		受送達者本人ニ渡シタリ 受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ 事務員 雇人 同居者		

注意 (書類受領者署名又ハ捺印不能ノ時ハ該署名捺印欄ニ其旨記入ノコト)  
 (送達ノ場所欄ニハ市町村字番地ヲ詳記ノコト) (D)(D)(D)(D)ノ欄中不要ノ欄ハ抹消ノコト



調書

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二、三、四號危險豫防設備請求事件ニ付昭和六年十二月二十三日午後一時東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林地内ニ於テ東京地方裁判所第△民事部裁判長判事天川一郎判事地上七郎判事人見三郎裁判所書記平田義夫列席事件ノ呼上ヲ爲シタルニ

原告代理人野村五郎被告代理人山田哲夫及鑑定人土木松太郎出頭シタリ

裁判長ハ各別紙調書ノ如ク檢證ヲ爲シ鑑定人土木松太郎ヲ訊問シタル上次回期日ハ追テ指定スル旨ヲ告知シタリ



東京地方裁判所第△民事部

裁判所書記 平田義夫 印  
裁判長判事 天川一郎 印

次回期日ヲ來ル十二月二十八日午前九時ト  
指定ス

昭和六年十二月二十五日

裁判長 印

檢證調書

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二三四號危險豫防設備請求事件ニ付昭和六年十二月二十三日午後一時東京地方裁判所第△民事部裁判長判事天川一郎判事地上七郎判事人見三郎ハ裁判所書記平田義夫ト共ニ左記場所ニ臨ミ檢證ヲ遂ケ其ノ結果ヲ明確ニスルコト左ノ如シ

(一)檢證ノ場所

東京府下蒲田町女塚八百五十二番被告所有山林及其ノ附近ニシテ檢證ノ目的ハ右山林ノ土砂採掘ニヨリテ之ニ接續セリト云フ原告所有同所八百五十一番宅地及同所内原告住宅ニ崩壞ノ危險存スルヤ否ヤノ狀況ヲ檢スルニ在リ。



(二) 檢證現場ノ模様

本訴被告所有ノ東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林ハ大森町ト池上町トヲ連絡スル俗稱池上街道ト稱セラルル街道ニ北面シ東同所八百五十三番山林ニ西同所八百五十七番山林ニ面シ南原告所有同所八百五十一番宅地ニ接シ附近一帶ハ右街道ヲ最低部トシテ丘陵形ノ地勢ヲ爲シ原告所有右宅地ハ其ノ最高部ニ位セリ  
被告所有山林ハ東西約二十五間南北凡九間略四角形ノ地形ヲ爲シ原告所有宅地ハ北方ニ狭ク南方ニ廣キ扇形ヲ形成シテ之ニ南接セリ其ノ概略ノ模様ハ之ヲ別紙ノ如ク見取圖ニ作成シ以テ原被兩造ノ主張及檢證ノ結果ノ説明ノ便ニ供セリ

(三) 現場ニ於ケル當事者ノ主張

原告代理人ハ原告所有八百五十一番宅地ト被告所有山林ノ境界線トシテ見取圖表示(イ)線ヲ指示シ被告所有山林中土砂採掘ノ部分トシテ(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)點ヲ連結スル線ヲ以テ圍鏡セラルル部分ヲ指示シタリ

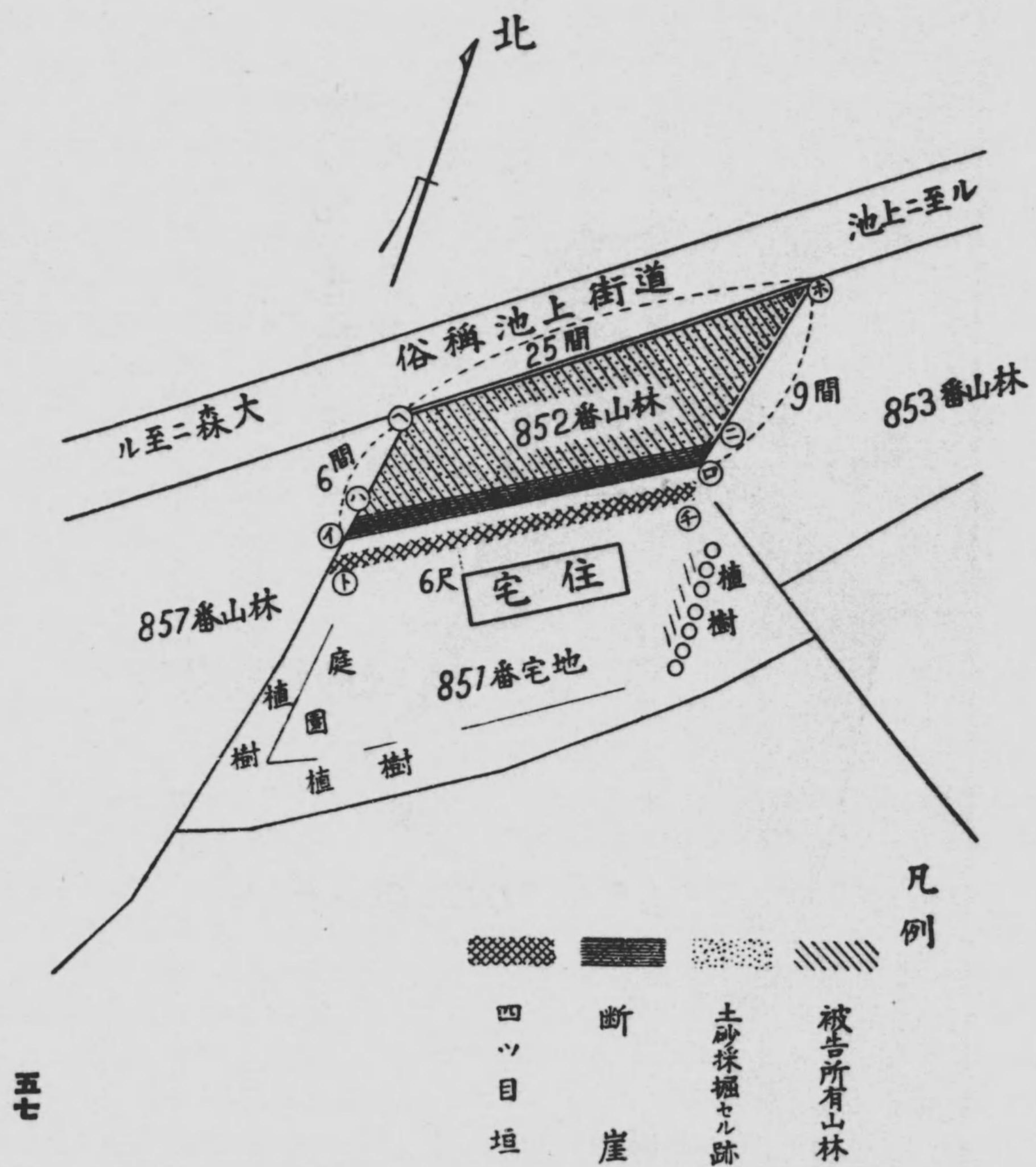
被告代理人ハ原被告所有地間ノ境界線ハ原告代理人主張ノ(イ)線ニ非ス同線南方

(四) 檢證ノ結果

約三尺ヲ距ツル四ツ目垣ノ箇所(見取圖(ト)線)ナリ土砂採掘ノ地域ハ原告代理人指示ノ地域ナルコトハ爭ハスト陳ヘタリ而シテ當裁判所ハ見取圖各(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ト)(チ)ノ箇所ニ杭ヲ打込ミ夫々ソノ地點ヲ明示セシメタリ

實地ニ付キ檢スルニ原告所有ノ前宅地ハ前(二)ニ記述シタルカ如ク池上街道ヨリ著シク高地ヲ占メ今同街道ニ立チテ繋争山林附近ヲ望ムニ原告宅地ヲ最高トシテ右被告所有山林ノ東西ニ接スル隣地ハ共ニ緩勾配ヲナシテ街道ニ接スルモ獨リ被告所有山林ノミハ別紙見取圖(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)部分ニ於テ土砂採掘セラレ殆ト同街道地盤ト大差ナキ平坦ナル地勢ヲ形成シ被告山林ト原告宅地トノ接スル箇所ハ斷層ヲ形成シテ所謂斷崖ヲ爲シテ峙立セリ而シテ今試ミニ同斷崖ノ上ニ立チテ土砂採掘現場ニ至ル高サヲ檢尺スルニソノ最高箇所ニ於テ四十五尺最低箇所ニ於テ四十尺勾配度ハ約六分ヲ算シ殆ト直角ニ垂ントセリ地質ヲ觀ルニ附近一帶ハ斷層面ニ表ハレタル土質ヨリ推スル時ハ軟弱ナル黃土質ナルヘシ然レハ前述ノ狀況ヲ以テシ





五七

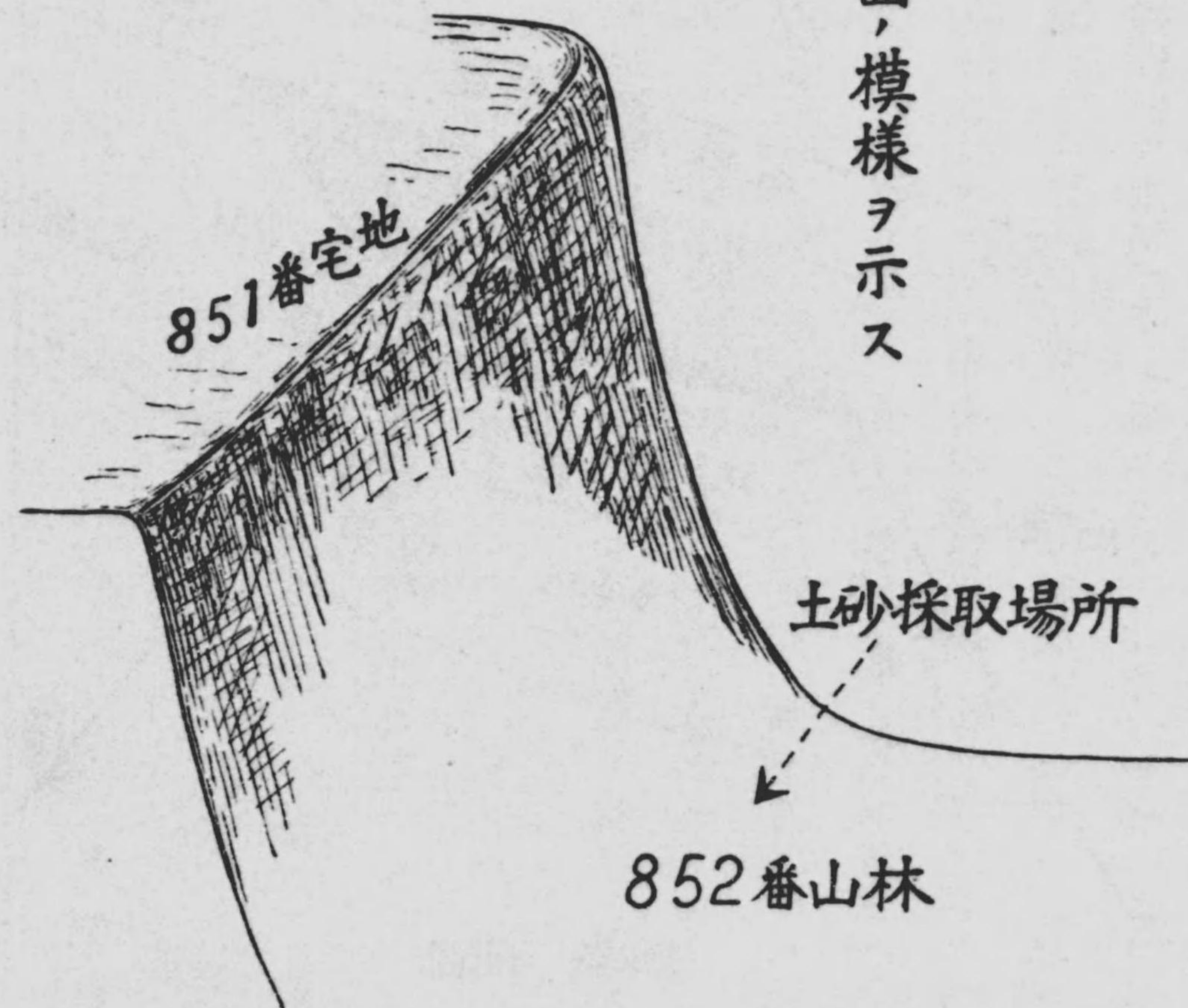
(五)  
 テハ雨水ノ濕潤能ク断崖上部ニ位スル原告宅地ニ崩壊ノ虞ナシト断スル能ハサル  
 ヘシ而シテ前示ノ如ク原被告間ニハ其ノ境界ニ付争存スト雖モソノ差僅ニ三尺ノ  
 ミ今被告ノ主張ヲ是ナリトシ断崖面上境界線(ト)迄ノ距離最短部ニシテ五尺最長  
 部ニシテ九尺ヲ存シ原告住宅ハ右(ト)線ヲ去ル六尺ノ個所ニ建設セラルルヲ以テ  
 被告所有山林ノ土砂採掘ノ爲メニ今遽ニ原告ノ宅地及住宅ニ崩壊ノ虞無シトスル  
 モ風霜雨雪時ニソノ憂全然無之トハ断セサルヲ得サルヘシ  
 以上既述ノ外原被告兩地並ニ其ノ附近ノ模様及其ノ検尺ノ結果ハ見取圖ニ之ヲ表  
 示シタリ

東京地方裁判所第△民事部

裁判所書記 平 田 義 夫 印  
 裁判長判事 天 川 一 郎 印



断崖面、模様ヲ示ス



調 書

鑑定人 土木松太郎

裁判長ハ偽證ノ罰ヲ諭示シ別紙宣誓書ノ通宣誓セシメタル上後ニ訊問スヘキ鑑定人ノ  
在ラサル所ニ於テ訊問シタリ  
鑑定人ノ供述ハ左ノ如シ

一、氏名 土木松太郎

一、年齢 五十五歳

一、職業 内務省土木技師

一、住居 東京府下蒲田町北蒲田二百六番地

裁判長ハ東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林及其ノ附近現場並檢證調書添附見取圖  
表示ノ原被告代理人ノ各主張スル同所八百五十二番山林ト八百五十一番宅地トノ境界



線ヲ指示説明シタル上

第一(イ)、東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地ト同所八百五十二番山林トノ境界線ト  
右山林地内土砂採取上壁線トノ平面間隔如何(但當事者雙方主張ノ境界線ヲ  
夫々基點トスヘシ)

(ロ)、右土砂採取現場ハ現状ノ儘放置スル時ハ土砂崩壊ノ虞アリヤ、アリトセハ其  
ノ範圍如何

第二 土砂採掘ノ爲隣地同所八百五十一番宅地ニ崩壊ノ虞アリヤ、アリトセハ現在  
之カ崩壊ヲ豫防スルニ付如何ナル設備ヲ兩土地ノ境界ニ施設ノ要アリヤ  
ヲ鑑定シ其ノ結果ヲ書面ヲ以テ報告スヘキ旨ヲ命シタリ  
鑑定人ハ承諾ノ旨ヲ答ヘタリ

東京地方裁判所第△民事部

裁判所書記 平 田 義 夫 印  
裁判長判事 天 川 一 郎 印

## 宣 誓 書

良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコ  
トヲ誓フ

鑑定人 土木松太郎 印



鑑定書

原告 甲野一郎  
被告 乙山二郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二三四號危險豫防設備請求事件ニ付昭和六年十二月二十三日東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林地内ニ於テ東京地方裁判所第△民事部ノ命ニ依リ右現場及檢證調書附屬圖面ニ基キ鑑定スルコト左ノ如シ

鑑定事項

- 第一(イ)、東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地ト同所八百五十二番山林トノ境界線ト右山林地内土砂採取上壁線トノ平面間隔如何(但當事者雙方主張ノ境界線ヲ夫々基點トスヘシ)
- (ロ)、右土砂採取現場ハ現状ノ儘放置スル時ハ土砂崩壊ノ虞アリヤ、アットセハ其



ノ範圍如何

第二 土砂採掘ノ爲隣地同所八百五十一番宅地ニ崩壊ノ虞アリヤ、アリトセハ現在之ヲ豫防スルニ付如何ナル設備ヲ兩土地ノ境界ニ施設ノ要アリヤ

鑑定ノ結果

第一(イ)、檢證調書見取圖(ト)線(被告主張ノ境界線)ヨリ土砂採取上壁線迄ノ平面間隔ハ(ト)點ニ於テ四十二尺(チ)點ニ於テ五十四尺(イ)線(原告主張境界線)ヨリ同上平面間隔ハ(イ)點ニ於テ三十九尺(ロ)點ニ於テ五十一尺

(ロ)、自然崩壊ノ虞アリト思料ス右山林ノ東西兩隣地ニハ殆ト影響ナキモノト思料セラルルモ土砂採取跡ハ南方隣地即八百五十一番宅地トノ間ニ直行四十尺乃至四十五尺ノ斷層ヲ形成シ勾配度殆ト直角ニ垂ントスル狀態ナルヲ以テ該斷層ノミニヨリ支ヘラルル右南方宅地ハ斷層ニ接シ之カ保強工事ヲ施スニ非レハ勢ヒ崩壊ヲ免レ得サルモノト思料ス

第二

右斷層部分ハ地盤稍軟弱且ツ前記ノ如ク急勾配ヲ形成セルヲ以テ十數年後ニハ南方宅地ノ自然崩壊スヘキ事第一(ロ)記述ノ如シ而シテ右宅地ノ崩壊豫防設備ニ至リテハ種々ノ工法アルヘシト雖モ最少ノ費用ト最大ノ效果トヲ併セ得ントセハ勾配度土質土層形成ノ狀態ヨリ觀察シ現場ニ於テ右兩地ノ境界線近クノ勾配土層部ニ接シ六度ノ勾配ヲ持シ土層ノ高サヲ上下ニ二分シソノ下部ヲ厚サ三尺五寸ノ鐵筋コンクリート裝置ヲ用ヒ上部ヲ厚サ三尺ノ花崗岩固メノ工法ニヨル裝置ヲ用フヘキモノト思料ス

鑑定理由

第一(イ)、ハ現場ノ實地測量ニ基クモノナリ  
(ロ)、及第二ニ就キ現場ハ斷層ノ勾配直高平均四十五尺勾配最モ急ニシテ軟弱ナル土質ナルヲ以テ風雨ニ晒サレ斷層部分自然崩壊シ因テ其ノ南部ニ接スル八百五十一番宅地モ十數年ノ歳月ノ經過ニヨリ崩壊ハ免レサルモノトス而シテ其



ノ危険豫防設備トシテハ前記ノ如キ工法ハ斯ル場合一般的ニ採用セラレ居ル  
モノナリ

右鑑定候也

昭和六年十二月二十五日

右鑑定人 土木松太郎 印

請 求 書 (日當特別手當)

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間昭和六年(ワ)第一、二三四號危険豫防設備請求事件ノ鑑定人トシテ昭和六年  
十二月二十三日出頭致候日當及特別手當金給與相成度及請求候也

昭和六年十二月二十五日

住所 東京府下蒲田町北蒲田二百六番地

氏名 土木松太郎 印

東京地方裁判所第△民事部

御 中



送達報告書

東京地方裁判所 第△民事部		東京地方裁判所 職第 號	
送達書類ノ表 示		送達ノ月日時	
東京地方裁判所昭和六年(ワ)第一、二三四號 危険豫防設備請求事件ノ昭和六年十二月二十八日午前九時ノ口頭辯論期日呼出狀		昭和六年十二月二十五日 午後二時—分	
東京地方裁判所書記課發		西日比谷野村法律事務所	
原告代理人 野村五郎宛		事務員 神山甚作 印	
送達ノ場所		事務員 神山甚作 印	
送達ノ方法		事務員 神山甚作 印	
受送達者		事務員 神山甚作 印	
右之通送達候		事務員 神山甚作 印	
昭和六年十二月二十五日		事務員 神山甚作 印	
東京區裁判所執達吏執行正一代理		事務員 神山甚作 印	
田中 立持 印		事務員 神山甚作 印	

請求金額  
一金貳拾圓也  
内 譯  
金五圓也 日當一日分  
金拾五圓也 特別手當金  
右金額ヲ給與ス  
昭和六年十二月二十五日 (係官印) 印



送達報告書

東京地方裁判所第△民事部

職第 號

送達報告書		送達書類ノ表示		受送者	
東京地方裁判所昭和六年(ワ)第一、二、三、四號 危険豫防設備請求事件ノ昭和六年十二月二十八日午前九時ノ口頭辯論期日呼出狀		東京地方裁判所書記課發		被告代理人 山田哲夫宛	
書類受領者ノ記名印	送達ノ年月日時	送達ノ場所	送達ノ方法	右之通送達候 昭和六年十二月二十五日	
大澤八郎 印	昭和六年十二月二十五日 午後三時三十分	西日比谷大澤八郎方	送達ノ方法	東京區裁判所執達吏執行正一代理 田中玄持 印	
		受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ	左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其場ニ差置タリ		



口頭辯論調書

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二三四號危險豫防設備請求事件ニ付昭和六年十二月二十八日午前九時東京地方裁判所第△民事部法廷ニ於テ

裁判長判事 天 川 一 郎  
判事 地 上 七 郎  
判事 皆 吉 進  
裁判所書記 平 田 義 夫

列席ノ上辯論ヲ公開ス  
事件ノ呼上ヲ爲シタルニ



原告代理人 野村五郎  
被告代理人 山田哲夫  
各出廷シタリ

右口頭辯論ニ於テ明確ニスル條項左ノ如シ  
裁判長ハ判事更迭ノ旨ヲ告ケタルニ  
雙方代理人ハ

從前口頭辯論ノ結果ヲ陳述シタリ  
原告代理人ハ

檢證及鑑定人土木松太郎ノ鑑定ノ結果並ニ證人伊東太郎ノ證言ヲ援用シタリ  
被告代理人ハ

檢證ノ結果並ニ證人丸山貞一ノ證言ヲ援用シタリ  
雙方代理人ハ

他ニ主張立證ナシト陳ヘ互ニ辯論シタリ

裁判長ハ結審ノ旨ヲ告ケ尙當事者本人ニ對シ和解ヲ試ムル旨ヲ宣シ和解期日及和解不  
調ノ場合ノ判決言渡期日トシテ昭和七年一月十日午前九時ヲ指定シ告知シタリ

裁判所書記 平田義夫 印  
裁判長判事 天川一郎 印



口頭辯論調書

原告 甲 野 一 郎  
被告 乙 山 二 郎

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二、三、四號危險豫防設備請求事件ニ付昭和七年一月十日  
午前九時東京地方裁判所第△民事部法廷ニ於テ

裁判長判事 天 川 一 郎  
判事 地 上 七 郎  
判事 皆 吉  
裁判所書記 平 田 義 夫

列席ノ上辯論ヲ公開シ事件ノ呼上ヲ爲シタルニ  
原告代理人野村五郎被告代理人山田哲夫及原告被告各本人出廷シタリ



裁判長ハ原被告雙方ニ對シ和解ヲ試ミタルモ不調ニ終リタリ依テ  
裁判長ハ判決原本ニ基キ主文ノ朗讀ニ依リ判決ヲ言渡シタリ

裁判所書記 平 田 義 夫 印  
裁判長判事 天 川 一 郎 印

昭和七年一月十日  
判決言渡  
昭和七年一月十日  
原本領收  
東京地方裁判所  
書記 平田義夫 印

昭和六年(ワ)第一、二三四號

判 決

東京府下蒲田町女塚八百五十一番地

原 告 甲 野 一 郎

右訴訟代理人辯護士 野 村 五 郎

横濱市蒔田町六百二十五番地

被 告 乙 山 二 郎

右訴訟代理人辯護士 山 田 哲 夫

右當事者間ノ昭和六年(ワ)第一、二三四號危險豫防設備請求事件ニ付判決スルコト左ノ  
如シ

主 文



被告ハ原告ニ對シ被告所有ニ係ル東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林七畝十五歩ト原告所有同所八百五十一番宅地三百坪トノ境界線近ク勾配土層部ニ接シ右宅地ニ對スル危險豫防ノ爲六分ノ勾配ヲ存シ土層ノ高サヲ上下ニ二分シソノ下部ヲ厚サ三尺五寸ノ鐵筋コンクリート裝置ヲ用ヒ上部ヲ厚サ三尺ノ花崗岩固メノ工法ヲ以テスル裝置ニヨル危險豫防設備ヲ爲スヘシ  
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

### 事 實

原告代理人ハ主文ト同旨ノ判決ヲ求メ其ノ請求原因トシテ原告ハ東京府下蒲田町女塚八百五十一番宅地三百坪ヲ所有シ之ニ住宅ヲ建設シ占有中ナル所被告所有同所八百五十二番山林七畝十五歩ハ右原告所有地ノ北方ニ接シ其ノ相接スル部分二十間ヲ最高トシ北方ニ傾斜シタル山林ナルカ被告ハ其ノ所有地タル右山林中殊ニ原告所有前示宅地トノ境界近クヨリ昭和五年一月頃ヨリ盛ニ土砂ヲ採掘搬出シ同六年六七月頃迄頻繁ニ

繼續シ現在ニ於テモ全然之ヲ中止シタルニ非ス時折リ之ヲ搬出シ爲ニ前示原告所有宅地ト被告所有山林トノ境界近クハ現在約四十尺乃至五十尺ニ近キ斷崖ヲ爲スニ至レリ而シテ右兩地ノ土層ハ軟弱ナル崩レ易キ土質ナルヨリ土砂ノ採掘搬出ノ爲メ原告所有宅地及其ノ地上ニ存スル住宅ハ漸次崩壞スルノ状態ニ在リテ危險尠カラサル狀勢ナレハ原告ハ被告ニ對シ屢次其ノ土砂搬出ノ中止及危險豫防設備ノ請求ヲ爲スモ被告ハ之ニ應セス依テ原告ハ所有權ニ基キ其ノ危險豫防ヲ被告ニ對シ求ムヘク之カ施設ニ付テハ請求趣旨ノ方法ヲ以テ最モ適當ナルモノト信シ本訴ニ及ヒタリト陳述シ被告ノ主張ニ對シ假リニ危險發生カ他人ノ行爲ニ基因スルトスルモ既ニ危險事實ノ存スル以上所有者タル被告ニ於テ之ヲ防止スル義務アリト主張シ立證トシテ甲第一號證ヲ提出シ當裁判所ノ檢證並ニ鑑定人土木松太郎ノ鑑定ノ各結果伊東太郎ノ證言ヲ援用シ乙第一號證ノ成立ヲ認メ同第二號證ハ不知ト陳ヘタリ

被告代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其ノ答辯トシテ被告カ東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林ヲ所有スルコトハ認ムルモ被告所



有地ノ土砂ハ被告ニ於テ採掘搬出シタルコトナシ右山林ハ被告ニ於テ昭和六年三月五日訴外丸山貞一ヨリ買受ケタルモノナル所貞一ハ其ノ所有時代訴外伊東太郎ヨリ右山林中ヨリ土砂ヲ採取シ度シトノ申込ヲ受ケテ之ヲ許諾シ其ノ區域ヲ原被告所有地ノ境界線ヲ去ル四五間ノ箇所ヨリ北道路ニ達スル迄ト限定シ原被告間ノ境界ノ部分ハ相當緩勾配ヲ存シ採掘ヲ許シタリ爾來右太郎ハ被告ノ買受後タル昭和六年四月頃迄其ノ採掘搬出ヲ繼續シタル事實ニシテ被告ノ全然關與セサルトコロナリ而モ右貞一ノ許諾シタル區域ハ之ヲ掘崩スモ原告所有宅地ニ危険ヲ及ホスコト無キノミナラス實際ニ於テモ原告所有宅地ノ境界ヨリ四五間ノ距離ヲ存シ崩壞ノ憂ナシ要之ニ原告主張ノ如キ危険アリトスルモ被告ハ其ノ原因行爲ニ全然關與セサルニ付本訴請求ハ失當ナリト主張シ立證トシテ乙第一、二號證ヲ提出シ當裁判所ノ檢證ノ結果並ニ丸山貞一ノ證言ヲ援用シ甲第一號證ノ成立ヲ認メタリ

理 由

東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林七畝十五歩カ被告ノ所有ナルコトハ當事者間爭

ナク又右山林ノ南方ニ接スル同所八百五十一番宅地三百坪カ原告ノ所有地ナルコトハ成立ニ爭ナキ甲第一號證ニヨリ之ヲ認ムルヲ得ヘク次ニ右原告所有宅地ノ北方境界ニ近接セル右被告所有山林地内ニ存スル斷崖ハ直高四十尺乃至四十五尺而モ勾配殆ト直角ニ垂ントシ地盤稍軟弱ナル土層ニシテ將來高臺ナル右原告宅地カ低地ナル被告ノ右山林地内へ自然崩壞ノ危険存スルコトハ鑑定人土木松太郎ノ鑑定ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得ヘシ仍テ原告主張ニ係ル所有權ニ基ク危険豫防請求權ノ適否ニ付按スルニ被告ハ本件ニ關シ前示八百五十二番山林ハ被告ニ於テ昭和六年三月五日訴外丸山貞一ヨリ買受ケタル所其ノ以前貞一ハ訴外伊東太郎ニ右山林中ヨリ土砂ノ採取ヲ許諾シ其ノ區域ヲ原被告所有地ノ境界線ヲ去ル四五間ノ箇所ヨリ北道路ニ至ル地域ト限定シタリ依テ太郎ハ爾來被告ノ買受後タル昭和六年五月、六月頃迄其ノ採掘搬出ヲ繼續シタル事實ニシテ被告ノ全然關與セサル所ナレハ原告主張ノ如キ危険アリトスルモ被告ニ之カ豫防ヲ爲スヘキ義務ナシト抗爭スレトモ抑モ所有權ハ法令ノ制限内ニ於テ物ヲ支配スル權利ニシテ其ノ行使タルヤ法令ノ範圍内ニ於テ他人ノ權利ニ抵觸セサル事ヲ要スヘク



之カ行使ニ關シ他人ノ權利ヲ侵害シ若クハ侵害ノ危険ヲ發生セシメタルトキハ被害者  
カ侵害ヲ認容スヘキ義務ヲ負擔セサル限リ其ノ被害者ニ對シ之カ損害ヲ賠償シ又ハ危  
險除去ノ豫防ヲ爲ササルヘカラサル義務ヲ負擔スルモノト解スルヲ相當トス然ラハ本  
件ニ於テ被告ハ昭和六年三月五日該山林ヲ訴外丸山貞一ヨリ買受ケ其ノ所有權ヲ取得  
セル以上假令訴外伊東太郎ノ該山林中ヨリノ土砂ノ採掘搬出カ被告前主ノ許諾ニヨル  
モノトスルモ之ニヨリ原告所有地ニ崩壊ノ危険ヲ發生セシメタル事前述示ノ如クナル  
ヲ以テ原告ニ右崩壊ノ危険ヲ認容スヘキ義務ヲ負擔セルコトノ認ムヘキモノナキ本件  
ニ於テ被告ハ相當ノ方法ヲ講シ原告所有地ノ崩壊ノ危険發生ヲ未然ニ防止セサルヘカ  
ラサル義務ヲ負擔スルモノトス然リ而シテ其ノ設備ニ付原告ノ本訴請求ノ工事方法ハ  
其ノ工法ニ適シ而モソノ費用最モ低廉ナルコトハ鑑定人土木松太郎ノ鑑定ニ徴シ之ヲ  
認メ得ヘキヲ以テ被告ハ此ノ工法ニ則ル危険豫防ノ設備ヲ爲ス義務アルモノトス  
右ノ理由ニ因リ原告ノ本訴請求ヲ相當ナリト認メ訴訟費用ニ付民事訴訟法第八十九條  
ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

## 東京地方裁判所第△民事部

裁判長判事	天	川	一	郎	印
判事	地	上	七	郎	印
判事	皆	吉		進	印



送達報告書

- 一 送達書類 判決正本各壹通
- 一 受送達者 原告被告雙方代理人

前記書類ハ之ヲ昭和七年一月十二日午前十一時右受送達者ニ對シ當廳書記課ニ於テ直接交付シテ送達ヲ爲シタリ

昭和七年一月十二日

東京地方裁判所第△民事部

裁判所書記 平 田 義 夫 印

原告代理人

書類受領者 野 村 五 郎 印

被告代理人

同 山 田 哲 夫 印



主 任 判 事  
十

目 標 ノ 件 事						記 録 號	民 事 第 二 審 訴 訟 記 録
請 求 事 件 危 險 豫 防 設 備						昭 和 七 年 ( 不 ) 第 一 二 號	
代 理 人	參 加 人	代 理 人	被 訴 人	代 理 人	控 訴 人	東 京 控 訴 院 第 △ 民 事 部	
田 村 四 郎	甲 田 九 郎	野 村 五 郎	甲 野 一 郎	山 口 三 郎	乙 山 二 郎		



指定期日	裁判長 又ハ判事	結果
昭和七年 二月二十日午前九時	○	續行
昭和七年 三月十日午前九時	○	
昭和七年 三月二十四日午前九時	○	
昭和月年 日午時		
昭和月年 日午時		
昭和月年 日午時		
昭和月年 日午時		
昭和月年 日午時		

東京地方  
記録昭和六年(ワ)第一、二三四號  
裁判所 日記第一二五號

訴訟記録送付書

控訴人 乙 山 二 郎  
被控訴人 甲 野 一 郎

當應昭和六年(ワ)第一、二三四號危險豫防設備請求事件ノ判決ニ對シ控訴狀ノ提出有之候ニ付本件訴訟記録並控訴狀及送付候

昭和七年一月十五日

東京地方裁判所  
裁判所書記 平 田 義 夫 印



東京控訴院  
民事部書記御中

危險豫防設備請求事件之控訴狀

東京控訴院	昭和七年
民事受付	一月十五日
二	七(不)二
五	



控訴代理人 山口三郎



第一審裁判所 東京地方裁判所第△民事部  
 事件番號 昭和六年(ワ)第一、二三四號  
 判決言渡 昭和七年一月十日  
 判決送達 昭和七年一月十二日  
 訴訟物ノ價格 五千圓  
 貼用印紙 四十五圓

印 十 圓  
紙  
 印 十 圓  
紙  
 印 十 圓  
紙  
 印 十 圓  
紙  
 印 五 圓  
紙

控 訴 狀

横濱市蒔田町六百二十五番地  
 控 訴 人 乙 山 二 郎  
 右訴訟代理人辯護士 山 口 三 郎  
 東京府下蒲田町女塚八百五十一番地  
 被 控 訴 人 甲 野 一 郎

危險豫防設備請求事件ノ控訴

請 求 ノ 趣 旨

原判決ヲ取消ス  
 被控訴人ノ請求ハ之ヲ棄却ス  
 訴訟費用ハ第一、二審共被控訴人ノ負擔トス  
 トノ御判決相成度シ



原判決ノ表示

主 文

被告ハ原告ニ對シ被告所有ニ係ル東京府下蒲田町女塚八百五十二番山林七畝十五歩ト原告所有同所八百五十一番宅地三百坪トノ境界線近ク勾配土層部ニ接シ右宅地ニ對スル危險豫防ノ爲六分ノ勾配ヲ存シ土層ノ高サヲ上下ニ二分シソノ下部ヲ厚サ三尺五寸ノ鐵筋コンクリート裝置ヲ用ヒ上部ヲ厚サ三尺ノ花崗岩固メノ工法ヲ以テスル裝置ニヨル危險豫防設備ヲ爲スヘシ  
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實及理由省略

東京地方裁判所第△民事部

裁判長判事

天

川

一

郎

判事

地

上

七

郎

判事

皆

吉

進

第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

本件當事者間東京地方裁判所第△民事部昭和六年(ワ)第一、二三四號危險豫防設備請求事件ニ付同裁判所ニ於テ昭和七年一月十日言渡サレタル判決ニ對シ控訴ス

第一審判決ニ對シ不服變更ノ限度

前掲第一審判決ニ對シテハ全部不服ナリ

事實 及 理由

第一審判決事實摘示ノ如ク控訴人ガ本件山林ヲ買受ケタルハ昭和六年三月五日ニシテ訴外伊東太郎カ右山林中ヨリ土砂ヲ採掘シタルハ之ニ先立ツ即昭和五年一月頃ヨリナリ而シテ控訴人カ右山林ノ所有權ヲ取得シタル當時ニ於テ既ニ兩地間ニハ四十尺以上ノ斷崖ヲ生シ居リタルモノニシテ控訴人カ所有權取得後ニ生シタルモノニ非ス然レハ被控訴人ハソノ原因ヲ作爲シタルモノニ對シ請求スヘキヲ控訴人ニ請求スルモノニシテ失當ナリ尙第一審判決摘示事實ヲ援用ス



證據方法

第一審判決摘示ノ通り提出ス

附屬書類

一、訴訟代理委任狀 壹通

右控訴申立候也

昭和七年一月十五日

右控訴代理人 山口三郎 印

東京控訴院民事部

御中

二錢 印紙

訴訟委任狀

拙者儀東京地方裁判所所屬辯護士山口三郎ヲ訴訟代理人ト定メ左ノ事項ヲ委任ス

一、控訴人拙者ヨリ被控訴人甲野一郎ニ對スル危險豫防設備請求控訴事件

一、右事件ニ關スル一切ノ訴訟行為、和解拋棄、認諾、取下、反訴ノ提起又ハ民事訴訟法第七十二條ノ規定ニ依ル脱退、保證、供託書ノ納付並ニ還付申請受領一切ノ件並ニ復代理人選任ノ件

右訴訟代理委任狀仍而如件

昭和七年一月十五日

乙 山 二 郎 印



送達報告書

東京控訴院第△民事部

職第 號

送達者	送達書類ノ表	送達ノ年月日時	送達ノ場所	書類受領者ノ記名印
山口三郎宛	東京控訴院 昭和七年(ネ)第一一二號 危険豫防設備請求控訴事件ノ昭和七年二月二十日午前九時ノ期日呼出狀 東京控訴院書記課發	昭和七年一月十七日 午後一時一分	山口三郎法律事務所	山口三郎 印
送達ノ方法 受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ 左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其場ニ差置タリ				

右之通送達候  
昭和七年一月十七日

東京區裁判所執達吏山里行夫代理

金山治明

印



答辯書差出命令

控訴人	乙	山	二	郎
右訴訟代理人	山	口	三	郎
被控訴人	甲	野	一	郎

右當事者間ノ當院昭和七年(ネ)第一二號危險豫防設備請求事件ニ付被控訴人ハ本命令送達ノ日ヨリ十四日內ニ左記事項ヲ明示シタル答辯書ヲ提出スヘシ

昭和七年一月十六日

東京控訴院第△民事部

裁判長判事 大海六衛 印

左記

答辯ノ趣旨



一定ノ申立ヲ掲クヘシ

### 事件ノ關係

左ノ區別ニヨリ被控訴人ノ攻撃及防禦方法ヲ掲クヘシ

原審ニ於テ主張シタル事實上及法律上ノ主張ニシテ當審ニ於テモ尙之ヲ維持セントスルモノ

當審ニ於テハ最早主張セサルモノ

當審ニ於テ追加若クハ更正シ又ハ新ニ提出セントスルモノ

尙控訴人ノ主張中追加更正新規提出ノ分ニ對スル陳述ノ如何ヲ明示スヘシ

### 控訴理由ニ對スル申述

控訴人ノ主張スル控訴ノ理由ニ對スル被控訴人ノ申述ヲ掲クヘシ

### 證據方法

事件關係ト同様左ノ區別ニ依リ被控訴人ノ證據方法ヲ開示スヘシ

原審ニ提出シ當審ニ於テモ尙維持セントスルモノ

當審ニ於テハ最早提出セサルモノ

當審ニ於テ新ニ提出セントスルモノ

尙控訴人ノ新ニ提出セントスル證據方法ニ對スル申述ヲ掲クヘシ  
申述ハ簡單ニシテ明瞭ナルコトヲ要ス

### 附屬書類



昭和七年(ネ)第一二號

3

一封書

一通

送達スベキ書類ノ表示

左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其ノ場ニ差置キタリ  
受送達者

本郵便物ハ左ノ事由ニヨリ返戻候也  
受信人移轉先不明

配達人 團

和年月 日 午時 分

書告

一	受送達者本人ニ渡シタリ	送達ノ場所
二	受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ	右ノ通送達候
	事務員	昭和 年 月 日
	雇人	蒲田郵便局
	同居者	集配手 文尾久春 印

注意

書類受領者署名又ハ捺印不能ノ時ハ該署名捺印欄ニ其旨記入ノコト  
送達ノ場所欄ニハ市町村字番地ヲ詳記ノコト、(一)(二)(三)ノ欄中不要ノ欄ハ抹消ノコト



昭和七年(ネ)第一二號

郵便送達報告書

一 封書 一通 送達スベキ書類ノ表示 但 控訴狀副本答辯書差出命令昭和七年二月二十日午前九時ノ口頭辯論期日呼出狀		書類受領者ノ署名又ハ捺印 一 受送達者本人ニ渡シタリ 二 受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ	三 事務員 受送達者 同居者	左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其ノ場ニ差置キタリ 事務員 同居者	送達ノ年月日時 昭和 年 月 日 午時 分	送達ノ場所 右ノ通送達候 昭和 年 月 日 蒲田郵便局 集配手 文尾久春印
--	--	--	-------------------	--	--------------------------	---

注意

書類受領者署名又ハ捺印不能ノ時ハ該署名捺印欄ニ其旨記入ノコト  
 送達ノ場所欄ニハ市町村字番地ヲ詳記ノコト、(一)(二)(三)ノ欄中不要ノ欄ハ抹消ノコト



昭和七年(ネ)第一二號

補正命令

横濱市蒔田町六百二十五番地

控訴人 乙 山 二郎

右訴訟代理人 山 口 三 郎

東京府下蒲田町女塚八百五十一番地

被控訴人 甲 野 一 郎

右當事者間ノ危険豫防設備請求事件ニ付被控訴人ニ對スル控訴狀ノ送達ハ被控訴人住居不明ノ爲不能ニ了リタリ依テ控訴人ハ此ノ命令送達ノ日ヨリ七日ノ期間内ニ本件控訴狀ノ送達ヲ爲シ得ル様之ヲ補正スヘシ

昭和七年一月十八日



送達報告書

東京控訴院第△民事部 職第 號		送達書類ノ表示		受送者	
		東京控訴院 昭和七年(ネ)第一一二號 危険豫防設備請求事件ノ補正命令謄本一通 東京控訴院書記課發		山口三郎宛	
職第 號		書類受領者ノ記名捺印	送達ノ年月日時	送達ノ場所	送達方
		田 幸 一 夫 印	昭和七年一月十九日 午前十一時一分	西日比谷山口法律事務所内	法 方 送 送
		受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ 事務員 田 幸 一 夫 左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其場ニ差置タリ			

右之通送達候  
昭和七年一月十九日

東京區裁判所執達吏山里行夫代理

金山治明 印

東京控訴院第△民事部  
 裁判長判事 大海六衛 印



昭和七年(ネ)第一二號

御 届

昭和七年一月十八日附補正命令ニ基キ被控訴人ノ住所ヲ左記ノ如ク訂正致シ候條同所  
宛控訴狀ヲ更ニ送達相成度及御届候也

昭和七年一月二十日

右控訴人訴訟代理人

山 口 三 郎 印

被控訴人住居

東京府下蒲田町六郷二百二十番地





昭和七年(ネ)第一二號

郵便送達報告書

<p>一 封書 一通</p> <p>但 控訴狀副本答辯書差出命令昭和七年二月二十日午前九時ノ口頭辯論期日呼出狀</p> <p>東京控訴院書記課發 甲野一郎宛</p>		<p>書類受領者ノ署名又ハ捺印</p> <p>甲野イワ</p>	<p>一 受送達者本人ニ渡シタリ</p> <p>受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ</p>	<p>二 事務員</p> <p>雇人</p> <p>同居者妻イワ</p>	<p>三 受送達者</p> <p>事務員</p> <p>雇人</p> <p>同居者</p>	<p>送達ノ年月日時</p> <p>昭和七年一月二十日午前九時一分</p> <p>送達ノ場所</p> <p>府下蒲田町六郷二百二十番地</p>	<p>左ノ者相當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其ノ場ニ差置キタリ</p> <p>右ノ通送達候</p> <p>昭和七年一月二十一日</p> <p>蒲田郵便局 集配手 文尾久春 印</p>
--	--	---------------------------------	---	--------------------------------------	---	---	---

注意 書類受領者署名又ハ捺印不能ノ時ハ該署名捺印欄ニ其旨記入ノコト  
送達ノ場所欄ニハ市町村字番地ヲ詳記ノコト、(一)(二)(三)ノ欄中不要ノ欄ハ抹消ノコト



昭和七年一月三十日  
昭和七年(ネ)第一二號

答  
辯  
書

被控訴人訴訟代理人

辯護士 野村五郎

東京控訴院	昭和七年	七(ネ)一二
民事受付	一月三十日	三
		四



- 一、第一審東京地方裁判所 昭和六年(ワ)第一、二三四號
- 一、同 判決言渡 昭和七年一月十日
- 一、同 判決送達 昭和七年一月十二日

十 印 紙  
錢

十 印 紙  
錢

五 印 紙  
錢

答 辯 書

横濱市蒔田町六百二十五番地  
控 訴 人 乙 山 二 郎

右訴訟代理人辯護士 山 口 三 郎

東京府下蒲田町女塚八百五十一番地  
當時 同府同町六郷二百二十番地

被 控 訴 人 甲 野 一 郎  
右訴訟代理人辯護士 野 村 五 郎

右當事者間御應昭和七年(ネ)第一二號危険豫防設備請求事件ニ付被控訴人ハ左ノ如ク答辯書ヲ提出仕候

答 辯 ノ 趣 旨

被控訴人ハ當審ニ於テ左ノ如ク判決アラシコトヲ求ム